

第Ⅱ部

南米広域

南米南部家畜疾病診断技術強化(仮称)

第二次事前評価調査報告書

目 次

1. 背景、経緯	
1-1 背景	149
1-2 経緯	149
2. 事前評価調査の実施	
2-1 調査目的	150
2-2 調査団員	150
2-3 調査日程	151
3. 調査結果	
3-1 調査の概要	151
3-2 当該セクターの問題点、課題	151
3-2-1 南米南部地域における当該セクターの問題点、課題	151
(1) 問題分析	151
(2) 中心課題解決のためのプロジェクト目標となりうる課題の絞込み	152
3-2-2 各国別獣医学研究状況	153
(1) アルゼンチンにおける獣医学研究	154
(2) ボリビアにおける獣医学研究	154
(3) パラグアイにおける獣医学研究	154
(4) ウルグアイにおける獣医学研究	155
3-3 プロジェクトの骨格	155
(1) プロジェクト名	155
(2) 対象地域 (国)	155
(3) 対象者	155
(4) プロジェクトのフレームワーク案	157
(5) カウンターパート機関	160
(6) プロジェクト拠点 (事務所)	161
4. プロジェクト実施の方法	
4-1 プロジェクト実施構造	161
(1) プロジェクトの枠組み	161
(2) プロジェクト運営体制	163
(3) プロジェクト合同調整委員会 (JCC)	163
(4) 広域協力による実施の意義	163
(5) 日本・アルゼンチン・パートナーシップ・プログラムについて	164
(6) 日本側支援機関	164

4-2	プロジェクト実施の注意点	164
	(1) 対象となりうる疾病及びその優先順位	164
	(2) 専門家派遣と研修実施のタイミングとその組み立て	165
5.	事前評価での評価5項目分析	
5-1	妥当性	167
5-2	有効性の予測	168
5-3	効率性の予測	168
5-4	インパクトの予測	169
5-5	自立発展性	169
6.	広域協力プロジェクト実施における手続きの留意点	
6-1	協力スキーム	170
6-2	投入形態別手続き	170
	(1) 専門家派遣	170
	(2) 研修	170
	(3) 現地業務費	171
	(4) 機材供与	171
7.	まとめ(団長所感)	172
付属資料		
1.	事前評価調査(第二次)日程	175
2.	主要面談者リスト	176
3.	第二次事前評価調査署名ミニッツ	177
4.	プロジェクト全体版PDM(和訳)	225
5.	アルゼンチン版PDM(和訳)	227
6.	ボリビア版PDM(和訳)	230

1. 背景、経緯

1-1 背景

アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイを含む南米南部地域の国では、畜産業は基幹産業である。近年、メルコスール（南米南部共同市場）による経済統合が進む中、これらの国々の家畜生体や畜産物の流通が一層盛んになり、各国の経済に与える影響は大きくなっている（例えば、ウルグアイ 2003 年の牛肉輸出額は約 3 億ドルに達し、牛肉生産量の約 6 割を輸出に向ける輸出依存型の構造となっている（畜産産業振興機構 HP より））。

この様な中、家畜疾病が発生した場合、畜産物の流通が制限されるなどの事態が生じ、経済的な損失が問題となっている。特に越境性疾病は国境を封鎖しても空気感染によって伝染することもあり、それらは重篤に至るものが多い。ウルグアイ（2001 年 4 月発生）、アルゼンチン（2001 年 3 月、2003 年 9 月発生）、パラグアイ（2002 年 9 月）で発生した口蹄疫では、それぞれの国からの輸出が全て停止されるなど、国際市場を一時的に失うなどの影響を受けている。

かかる状況下、南米南部国家間で共通して発生する疾病及び越境性疾病に対しては国を越えた共同の取り組みが求められている。

1-2 経緯

上記課題に関し、国際協力機構（以下「JICA」と記す）は、今まで基礎調査（2002 年 10 月）、第一次事前評価調査（2003 年 12 月）を実施した。

今までの調査とその結果

●基礎調査（2002 年 10 月）

南米のこのような状況を踏まえ、2002 年 10 月に JICA は基礎調査団を派遣し、南米のアルゼンチン国、ボリビア国、パラグアイ国及びウルグアイ国を対象に、家畜衛生状況や家畜疾病防除に対するニーズを把握するとともに、上記 4 カ国間の連携の可能性を調査し、家畜疾病防除に係る広域技術協力実施の検討に必要な基礎的情報の収集を行った。その結果、

- ①上記 4 カ国で家畜疾病に係る取り組みが優先課題となっていること
- ②広域的な取り組みに積極的であること
- ③その協力の実施を念頭に置いた場合、我が国が 1989 年以来協力してきたアルゼンチン国のラ・プラタ大学獣医学部は、広域協力の拠点として十分な技術力と経験及び意思を有していることが明らかになった。

●正式要請

以上の結果と、さらにラ・プラタ大学獣医学部によるアルゼンチン国周辺国の独自調査結果を受けて、アルゼンチン国は、広域協力「南米地域における家畜疾病防除計画」を正式に要請してきた。

●第一次事前評価調査（2003 年 10 月）

JICA はこの要請を受け、2003 年 12 月に関係者との協議及び現地調査を通じてプロジェクトの妥当性を確認し、事前評価を実施することを目的とした、第一次事前評価調査団を派遣した。第一次事前評価調査では、収集した情報及び現地調査に基づいてプロジ

プロジェクトの基本計画に係る検討を行い、プロジェクトの計画、PDM等のプロジェクト計画原案の策定に関する説明を行い、さらに上記4カ国で取り組む疾病の優先順位や具体的な活動内容を絞り込むよう、各国の案件窓口機関（プロジェクト開始後は、プロジェクトのカウターパート機関として想定）に依頼を行った。＊詳細は、「第一次事前評価調査報告書」参照

その後、第一次事前評価調査の結果を受けて、当該4カ国では、複数回のワークショップを開催して、問題の分析、対象とする疾病の抽出、具体的なプロジェクト計画書案の検討を重ねていった。

- 各国における現状調査／ワークショップ（2004年4月～6月）
各国で追加的現状調査を行い、情報を収集するとともに、ワークショップを開催して、問題分析等を行った。
- 家畜疾病防除計画プロジェクト全体ワークショップ（2004年8月）
各国別プロジェクトの骨子案、プロジェクトの実施計画案を策定した。また、プロジェクトのコーディネーターの選定を行った。

2. 事前評価調査の実施

2-1 調査目的

事前評価調査（第一次）の結果を受け、JICA アルゼンチン事務所及びアルゼンチン国ラプラタ大学が主体となり、関係4カ国別のプロジェクト計画書案を策定するための追加調査の実施、ワークショップ開催、関係者協議を行った。この結果、今般、それぞれの国別プロジェクト計画書（第一次案）が提出された。

そこで、関係者との協議を行い、具体的なプロジェクトの骨格を決定することを目的に、第二次事前評価調査を実施する。なお、調査を通じて決定されたプロジェクトの骨格は、現地調査最終日において合意文書（M/M）として署名されるとともに、プロジェクト開始のプロジェクトの実施協議議事録（R/D）の原型とする。

2-2 調査団員

調査団員、所属、派遣期間は以下のとおり。

	分野	氏名	所属	期間
1	団長・総括	高田 宏仁	JICA 農村開発部 第二グループ 畑作地帯第一チーム長	2004. 10. 03- 2004. 10. 16
2	家畜疾病防除	小野 憲一郎	東京大学 大学院農学生命科学 研究科 獣医臨床病理学講座 教授	2004. 10. 03- 2004. 10. 16
3	協力計画	野口 伸一	JICA 農村開発部 第二グループ 第二チーム 職員	2004. 10. 03- 2004. 10. 16
4	計画分析	渡邊 淳子	元アルゼンチン JICA 企画調査 員	2004. 09. 27- 2004. 10. 15

2-3 調査日程

2004年9月27日～2004年10月16日（詳細日程は付属資料参照）

3. 調査結果

3-1 調査の概要

関係4各国関係者の参加を得て、ワークショップを実施するとともに、ラ・プラタ大学関係者と協議を実施した。その結果、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ各国における重要疾病や活動計画を明確にした上で、各国別PDM、全体PDMを作成した。

また、アルゼンチンと締結するR/D（討議議事録）、他3カ国と締結する広域協力のミニッツの内容についても、説明を行った結果、関係者の合意が得られた。

以上について、とりまとめを行い、今般、第二次事前評価調査に関するミニッツとして署名を行った（付属資料参照）。

なお、プロジェクト名称については、各国大学獣医学部をはじめとする家畜衛生関係者の人材育成がプロジェクトの中心課題であるとの点から、「人材育成」を第一のキーワードとしたものに変更することが望ましいと考える。また、その人材育成が対象域内において、広域協力の枠組みを活用して実施されることに鑑み、「広域協力を通じた」という表現を用い、「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成」プロジェクト（案）とした。

3-2 当該セクターの問題点、課題

本事前評価調査を実施する際、収集した追加情報を基に、問題分析、課題の絞込みを行った。本項では、これらの問題分析、課題の絞込み結果を、整理する。

3-2-1 南米南部地域における当該セクターの問題点、課題

(1) 問題分析

Q. 中心問題は何であろうか。

A. （第一次事前評価調査で実施した関係者ワークショップの問題系図及び関係者の聞き取りの結果）対象国の基幹産業である畜産業における中心問題は、「現状では域内の共通疾病を減らすことができない」ことである。家畜の疾病が発生した場合、輸出が禁止され、家畜を処分する事態になる。国家として、また生産業者として、これによって大きな経済的損失が発生する。

Q. では、この共通疾病対策における問題点は何があるだろうか。

A. いくつかの要因が存在する。

- 家畜疾病診断技術、伝染病予防技術は、国ごとにレベルの差がある。
- 国境をまたがって疾病が発生すると、国家間で責任を押しつけあっている状況がある（犯人国探しとなり、本質的な解決に至らない）。
- 疾病の監視は、自国の領域内にとどまっている。
- それぞれの国では、自分の国の疾病診断技術がどの程度のレベルであるかを認識していない。

- 疾病が発生した場合、それを公表するという意識がない。
- 隣の国がどういう状況であるの判らない。

Q. これら問題を引き起こす主要な課題は、どの様に整理されるのか。

A. 以下の4つの課題に整理される。

課題①：域内各国で行われている診断が適切でない

課題②：域内各国で適切な予防が行われていない

課題③：域内各国で適切な治療が行われていない

課題④：域内の疾病をコントロールする（減らす）ための基準・制度がない

（補足＊域内共通の疾病＝地域を成す国々を移動する可能性のある疾病）

Q. これら課題に対応することで、どの様な効果が期待できるのであろうか。

A. ①対象国の家畜の疾病が減る、②国境を越えた病気の進入の危険性が減る

↓（その結果）

①国内販売が増える、②輸出量が増える

↓（その結果）

①国家の経済的損失が縮小する、②生産者の収益が拡大する

実際の問題は複合的な要因により発生しているため、上述の様に一直線で問題が解決されるとは言い難く、また、成果が発現するためには、十分な時間や資源が必要であるとも言える。しかし、これらの問題点に対処することで、当該セクターの発展が大いに期待できると考えられる。

(2) 中心課題解決のためのプロジェクト目標となりうる課題の絞込み

上述の主要な4つの課題である「課題①：域内各国で行われている診断が適切でない」、「課題②：域内各国で適切な予防が行われていない」、「課題③：域内各国で適切な治療が行われていない」、「課題④：域内の疾病をコントロールする（減らす）ための基準・制度がない」について、これらの関係をさらに掘り下げて分析してみると以下のとおりになる。

Q. 4つの主要課題はどの様な関係にあるのか。

A. 疾病対策の最初の取り掛かりは、まず病気が特定できる（その病気は何かを知る）ことである。具体的には、現場レベルでは、まずそれが何か重大な疾病であると認識でき、その情報が機関に知らされ、検査機関レベルでは、その疾病がいったい何病かが分かる、という流れが見られなければならない。言い換えれば、疾病の「診断」によって病気が特定できることが疾病対策の最初のステップとも言える。「診断」ができて、その後「予防」、「治療」、「基準・制度」の段階に移る。

Q. では、現在、疾病診断に必要な獣医師、検査技師はどういった状況にあるのか。

A. 以下の状況にあると考えている。

- ① 獣医師が疾病に直面したとき、その病気が深刻なものかどうか判断できない。そのため、中央（機関）に連絡が遅れる／知らされないため、時間を要し、被害が深刻化することがある。
- ② ラボや臨床の技師が統一のあるレベルに達していない。そのため信頼のある試験結果が得られにくい。
- ③ 獣医師は自分の知識以上の判断ができない。また、自分の知識の範囲／限界を認識する機会がない。
- ④ 大学卒業後に獣医師となってから、研鑽する機会が全くない。
- ⑤ 情報が現場へ伝えられていない。そのため、現場の獣医師は自国で何が発生しているのか知らない・判らない。

Q. この状況から何が分かり、求められているのだろうか。

A. 以下のことが分かる。

- ① 疾病拡大をどの程度まで抑えられるのかは、疾病診断の初動の部分を担当する現場の獣医師の能力と判断に拠っていると言える。ただし、現在の現場の獣医師の知識レベル、情報蓄積量を考えると、そこまでの役割を期待するのは難しい状況である。
- ② ラボや臨床の技師による検査の信頼性アップが求められている。
- ③ 獣医師は自分の知識レベルを認識し、何が不足しているのかを認識する機会を得ることが必要である。
- ④ 大学卒業後に獣医師となってから、研鑽する機会が全くない。→（再研修の実施など、ブラッシュアップコース、Refresher コースなどの設置が必要）
- ⑤ 情報が現場へ伝えられる仕組み、システムを見直す必要がある。

Q. これらの分析から言えることは何か。

A. 集約すると、以下の2点が抽出される。

- ① 「獣医師の診断技術の改善（向上）」が全ての基盤をなすものとして、これを中心課題としてとらえることができる。
- ② また、家畜衛生の情報がキチンと伝わるシステムの構築も求められる。

なお、本分野では、日本以外の支援各国（開発ドナー）も支援を行っているが、その多くは中央政府に対する政策的支援が中心である。疾病発生時には、ワクチンを投与するなどの支援を行うケースが見られるが、対症療法的な対応が多いと言える。当該国の家畜疾病対策の現場レベルの業務を担当する獣医師や、試験機関のスタッフに対する能力向上についての支援各国の今までの協力実績は少ないと言える。

3-2-2 各国別獣医学研究状況

本項では、各国別の獣医学研究の状況、課題を整理する。

(1) アルゼンチンにおける獣医学研究

- ① 拠点となるアルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部の獣医学研究は中南米で最もアクティビティーが高い。
- ② ラ・プラタ大学獣医学部の各種疾患に対する診断技術、検査技術、測定技術などのレベルは高く、広域協力に際して問題を生じることはない。
- ③ ラ・プラタ大学獣医学部は広域協力の立ち上げに意欲的で、また、全学的なサポートが受けられる状況にある。
- ④ ラ・プラタ大学獣医学部には広域技術協力に対して十分な実施能力がある（人的資源、技術レベルなど）。
- ⑤ ラ・プラタ大学獣医学部と SENASA 及び INTA との連携は密で、情報・技術交流に何ら問題を生じない。
- ⑥ ラ・プラタ大学獣医学部の研究レベルの維持、進展にサポートが必要である。
- ⑦ ラ・プラタ大学獣医学部に対する人材養成（カウンターパートの研修、大学院院生など次世代の人材養成など）が必要である。

(2) ボリビアにおける獣医学研究

- ① ボリビア国 SENASAG は設立されたばかりで、十分に機能していない。
- ② ボリビア国 LIDIVET が各種疾患に対する診断、検査などを実施しているが、技術レベルは低い。
- ③ LIDIVET には各種機器が整備されているがその稼働率は低い。
- ④ LIDIVECO（家禽疾病が主体）のレベルは不明。
- ⑤ SENASAG、LIDIVET、LIDIVECO の役割分担、体制は確立されていない。
- ⑥ ボリビア国ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部では教育が主体で、研究は行っていない。
- ⑦ ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部にモデル教室（実験室）を作り、その結果を示すことで、研究室の充実、拡大を図る必要がある。
- ⑧ ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部を中心とした連携体制を作る必要がある。
- ⑨ アルゼンチン、ウルグアイとは技術レベルでかなりの差が見られる。

(3) パラグアイにおける獣医学研究

- ① パラグアイ国 LIDIAV 及び パラグアイ国 SENACSA には各種機器が整備されているが試薬等の消耗品が得られないため稼働していない（とくに LIDIAV）。
- ② ラ・プラタ大学獣医学部からの第三国専門家の派遣を受け入れている。
- ③ 広域協力の立ち上げに賛成で、研修及び専門家の派遣を希望している（大学、LIDIAV、SENACSA）。
- ④ LIDIAV 及び SENACSA にはパラグアイ国アスンシオン大学獣医学部と兼務しているものが多い。
- ⑤ アスンシオン大学獣医学部と SENACSA 及び LIDIAV との連携は可能と思われるが、技術レベルの優劣は不明。
- ⑥ パラグアイ国内における体制作りが必要である。
- ⑦ 広域協力実施の際にはアスンシオン大学獣医学部に機器整備が必要。

- ⑧ アスンシオン大学獣医学部には我が国で研修を受けた者が多く、広域協力実施に際して有用な人材の確保が可能である。

(4) ウルグアイにおける獣医学研究

- ① ウルグアイ国 DILAVE には各種機器が整備されており、各機器は稼働している。
- ② 広域協力の立ち上げに賛成で、研修及び専門家の派遣等を希望している。
- ③ DILAVE にはウルグアイ国共和国大学獣医学部と兼務しているものが多い。
- ④ 共和国大学獣医学部と DILAVE との連携は可能と思われる。
- ⑤ 共和国大学獣医学部は教育が主体で、研究は DILAVE を使うことが多い（一部改善中）。
- ⑥ 広域協力実施の際には共和国大学獣医学部に機器整備が必要である。
- ⑦ 共和国大学獣医学部、DILAVE には我が国で研修を受けた者が多く、広域協力実施に際して有用な人材の確保が可能である。

3-3 プロジェクトの骨格

本調査の結果、プロジェクトの骨格として、以下の内容のプロジェクトが想定される。

(1) プロジェクト名

和名：「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成」プロジェクト

英名：The Project of the Capacity Development for Improvement of Livestock Hygiene in Southern part of South America through Regional Technical Cooperation

本案件は、人材育成に焦点をあてるプロジェクトであるため、案件名に「人材育成」であることを示した。また、本案件は、複数の対象国が協力し、それぞれの国で技術を補完しながら実施する広域協力であるため、案件名に「広域協力を通じた」を付した。

(2) 対象地域（国）

本プロジェクトは、事前に広域プロジェクトの参加を表明している、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの4カ国を対象とする。

なお、プロジェクトが開始し、これら4カ国以外に参加を表明する国が出てきた場合は、応じて参加について検討することとする。

(3) 対象者

本プロジェクトは家畜疾病「診断」技術の能力アップを図り、その後につながる疾病の「予防」、疾病の「治療」、疾病対策のための「基準・制度」の能力アップの基盤作りを行うものである。そのため、プロジェクトは、「診断」に関わる人材を対象者に設定する。具体的には、大学獣医学部教官、試験研究所の獣医師、現場（クリニック）の獣医師が直接対象者（裨益者）として考えられる（潜在的な裨益対象者の数は、以下の表を参照のこと）。

なお、獣医関係の行政官に対しては、直接の対象者とはしないものの、プロジェクトが構築する情報ネットワークや、各種セミナー等を通じて広く情報提供を行う計画である。

特に、家畜衛生情報システム整備においては、各国行政機関の支援が必要と考えるため、本プロジェクトとの関わりを持たせておく必要がある。

(a) 大学スタッフに対する人材育成

	国名	ベースライン（現在の状況）
1	アルゼンチン	<ul style="list-style-type: none"> ・ラ・プラタ大学獣医教官約 360 名（第一次事前評価ワークショップ時に聞き取り） ・各国派遣可能講師数約 20 名（第二次事前評価ワークショップ時に聞き取り）
2	ボリビア	<ul style="list-style-type: none"> ・想定するプロジェクトが対象とするモレノ大学教官数 60 名（事前アンケートより）
3	パラグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・アスンシオン大学の獣医教官数約 175 名（第一次事前評価調査ワークショップ時に聞き取り） ・アスンシオン大学からは毎年約 30 名程度の獣医師を輩出
4	ウルグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・共和国大学獣医教官約 260 名（第一次事前評価ワークショップ時に聞き取り） ・獣医免許取得年間約 50 名（基礎調査）

(b) 試験研究所スタッフに対する人材育成

	国名	ベースライン（現在の状況）
1	アルゼンチン	(プロジェクトの対象外)
2	ボリビア	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタクルス獣医診断センター（LIDIVET）の獣医 9 名（基礎調査） ・コチャバンバ獣医診断センター（LIDIVECO）の獣医約 10 名 ・対象とする研究所スタッフ 20 名（資料による情報）
3	パラグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜衛生センター（SENACSA）の事務員を除く、専門家と技術補助の数：中央+研究所 123 名、地方 298 名（基礎調査） ・獣医診断研究所（LIDIIV）の総職員数 43 名（基礎調査）
4	ウルグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・牧畜サービス局獣医研究部（DILAVE）の専門職員 61 名（基礎調査）

(c) 現場の獣医師に対する人材育成

	国名	ベースライン（現在の状況）
1	アルゼンチン	(プロジェクトの対象外)
2	ボリビア	<ul style="list-style-type: none"> ・現場獣医師約 200 名（内モレノ大学と関係する現場獣医師約 20 名）（ワークショップ時聞き取り） ・個人経営獣医師 400 名（ワークショップ時聞き取り）
3	パラグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・現場獣医師約 560 名（パラグアイコネクターからの聞き取り。なおパラグアイ全国では約 1,400 名）
4	ウルグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・現場獣医師約 1,600 名（第一次事前評価調査ワークショップ時に聞き取り。国家レポート（2003 年）によると、全国の登録者は 3,450 名）

(4) プロジェクトのフレームワーク案

(a) 広域プロジェクトと各国プロジェクトの関係

本案件は、広域プロジェクトと称しているものの、対象 4 カ国の技術レベルに異なることから、一つの計画書（PDM、プロジェクトデザインマトリックス）で 4 カ国全てのプロジェクトを網羅することは難しい。各国で実施する活動は、その国の成果となり、さらにその国が目指すべき目標につながっていくといった様に、一つの完結したプロジェクトと見なすことができる。また、各国の活動を適切に評価・モニタリングするために、国毎に計画書を作成するメリットは大きい。そのため、本案件では、まず個々に各 4 カ国のプロジェクト計画書を作成した。特に、アルゼンチンは、広域協力の事務局や域内研修の講師供給元としての役割を担うため、他 3 カ国と大きく立場が異なる。また、家畜疾病の技術レベルに関して言えば、アルゼンチンは比較的高位にあるが、ボリビア、パラグアイは更に技術アップが必要なレベルにあるなど、国毎に技術レベルの違いが見られる。これらにより、国毎の計画書（各国版 PDM）を設定することとした。

一方、これらアルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの各国のプロジェクト目標が達成されることで、対象域内の共通した目標が達成されることになる。そのため、域内のプロジェクト全体を包括するプロジェクト計画書（全体計画書 PDM）も策定した。

この全体計画と各国計画の関係は下図となる。広域協力としての評価は、全体計画書の内容に基づいて行うこととなる。なお、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの各活動の進捗はアルゼンチンの活動の進捗に影響する（例えば、ボリビアの活動が遅れば、アルゼンチンの活動も遅れるといった関係）。その状況を表すため、下図ではアルゼンチンの位置付けを若干上位に置いている。

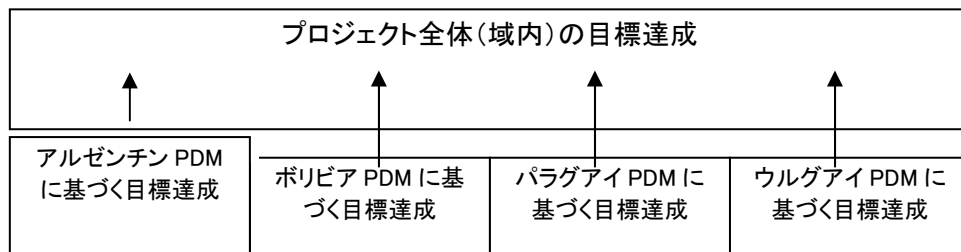


図 広域プロジェクトと各国プロジェクトの関係

(b) 各国活動と広域活動の明確化

各国内で実施する活動においては、次の 2 種類の活動に区分できる。

- ① 各国で実施する「各国活動」
- ② プロジェクト事務局（アルゼンチン）が主体となって進める活動で、域内の技術のレベルアップのための「広域活動」

そのため、プロジェクト計画書の活動においては、「各国活動」か「広域活動」を明記して、それぞれの位置付けが分かるようにした。

(c) プロジェクトの要約

広域全体計画と各国別計画の構成は以下の通りとなる。

広域プロジェクトの上位目標、プロジェクト目標は、対象 4 カ国に共通する目標であるが、広域プロジェクトの成果は、各国別プロジェクトの目標に相当するものとして構成している。また、各国毎に、それぞれ期待される成果、活動を設定している。(詳細は付属資料参照)。

上位目標	域内の家畜衛生状況が向上する			
プロジェクト目標	域内で行なわれる疾病診断が適切になる			
	アルゼンチン国	ボリビア国	パラグアイ国	ウルグアイ国
成果 (=各国のプロジェクト目標)	1. アルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部において、南米南部地域の家畜衛生に関する人材育成センターとしての能力が向上する	2. ボリビアにおける家畜疾病診断能力が改善する	3. パラグアイにおける家畜疾病診断能力が改善する	4. ウルグアイにおける家畜疾病診断能力が改善する
各国別プロジェクトの成果	1. ラ・プラタ大学獣医学部教官の能力が向上する 2. 南米南部地域の家畜衛生のために、国際基準に適合した診断・研究が実施できる環境が整備される 3. 広域情報ネットワークが構築される 4. 広域調整システムが確立される 5. 広域研究グループが構成される 6. 広域ネットワーク内で互換性のある大学卒後教育の制度が実施される	1. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部教官の能力が向上する 2. 研究所 (LIDIVET) の獣医師の能力が向上する 3. クリニック診断の獣医師の能力が向上する 4. プロジェクトに係っているボリビア国のラボラトリーでの作業手順の適正化が図られる 5. 広域情報ネットワークが構築される 6. 広域調整システムが機能する 7. 広域研究グループが構成される	1. 国立アスンシオン大学獣医学部教官の能力が向上する 2. 研究所 (SENACSA) の獣医師の能力が向上する 3. 現場個人獣医師の能力が向上する 4. ラボラトリーでの作業手順の適正化が図られる 5. 広域情報ネットワークが構築される 6. 広域調整システムが機能する 7. 広域研究グループが構成される	1. 共和国大学獣医学部教官の能力が向上する 2. 研究所の獣医師の能力が向上する 3. 現場獣医師の能力が向上する 4. ラボラトリーでの作業手順の適正化が図られる 5. 広域情報ネットワークが構築される 6. 広域調整システムが機能する 7. 広域研究グループが構成される
活動	1. 1 ----- (略)	1. 1 ----- (略)	1. 1 ----- (略)	1. 1 ----- (略)

(d) 投入
(日本側の投入)

想定される日本側の投入は、①専門家派遣、②機材供与、③研修、④プロジェクト運営経費の一部負担（現地業務）などである。

ア) 長期専門家派遣

長期専門家は、「業務調整／プロジェクト管理（仮）」の一名を想定する。プロジェクトの事務局であるアルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部のプロジェクト運営の支援を行い、かつ技術的なアドバイスをを行なうこととなる。

なお、プロジェクトの運営総括を担うプロジェクトチーフアドバイザーに関しては、長期間の滞在とせず、短期専門家による派遣を想定する。

イ) 短期専門家派遣

短期専門家は、プロジェクトの運営総括を担う「チーフアドバイザー」、プロジェクトの運営方法を強化する「PCM（プロジェクト・サイクル・マネージメント）技術」、家畜疾病の技術指導を行う複数の技術専門家の派遣を想定する。なお、これら短期専門家の派遣の実施は、年間計画、5ヵ年計画等の各種計画と、年度毎の予算状況を考慮して、その指導科目、時期、人数を決定する。

ウ) 機材供与

機材については、「技術移転が可能になる最低限の機材」とする方針である。特に、カウンターパート機関は、過去に JICA のプロジェクトで供与されている資機材を有し、資産の有効活用の点などからも、慎重に機材選定を行うこととする。機材についても、プロジェクト開始後に、各国の活動の進捗状況や予算に応じて、決定する。

なお、第二次事前評価調査時点で、候補となる資機材は以下のとおりである。

表 調達機材候補（第二次事前評価調査時点） *必ず全ての機材を揃えることを意味するものではない

アルゼンチン用 資機材リスト案	Clean Bench (biohazard type)、Autocleave、Co2 Incubator、Microscope x2、Ultra Low Freezer、Real Time PCR、Micropipettes multichannel x5、Biohazard Unit
ボリビア用 資機材リスト案	Immunofluorescence Microscope、Microscope with camera and projector、Microtome、Vibratome、Tissue processor、Freezers(-20° C) x2、Refrigerator(4° C) x2、Computer、Digital camera、Digital video recorder、Multimedia projector、ELISA reader、ELISA microplate washer、Micropipettes multichannel x5、Incubator(37° C)、ELISA microplate mixer、Safety Cabinet Class II、CO2 Incubator、Autoclave、Sterilization oven、Digital Balance、Freezer (-70° C)、Hen eggs Incubator
パラグアイ用 資機材リスト案	ELISA reader、ELISA microplate washer、Micropipettes multichannel x5、Incubator (37° C)、Freezer (-20° C)、Refrigerator、ELISA microplate mixer、Safety Cabinet Class II、CO2 Incubator、Autoclave、Sterilization oven、Digital Balance、Freezer(-70° C)、Freezer(-20° C)、Hen eggs Incubator、Micropipettes multichannel x2
ウルグアイ用 資機材リスト案	Safety Cabinet Class II、CO2 Incubator、Autoclave、Sterilization oven、Digital Balance、Freezer(-70° C)、Freezer(-20° C)、Hen eggs Incubator、Micropipettes multichannel x2

エ) 現地業務費

現地業務費については、相手側のプロジェクトの運営費を補完するために支出する。

オ) 研修

研修は、一人でも多くの獣医師が研修に参加できるように、国内、または域内の研修を中心に効率的に実施する。

カ) その他

第二次事前評価調査時、アルゼンチン側より、同国ラ・プラタ大学に、組替え DNA 実験が可能な実験室 (P3 レベル) 整備の要請があった。調査団はそれに対して、実験室整備は本プロジェクト目標達成のために必須事項ではなく、また、日本でも P3 レベルの実験室を設置している大学は限られており、そのレベルに達するまで、研究スタッフの育成や資機材の充実など様々な段階を踏んできていることから、ラ・プラタ大学もこれら段階を踏んでから整備する方が望ましいと考え、その旨説明を行い、アルゼンチン側の理解を得ている。

(相手国側の投入)

相手国側の投入としては、国毎に投入規模が大きく異なるものの、4 カ国で共通しているのは、以下の投入となる。

- カウンターパートの配置
- 資機材
- 土地・建物
- プロジェクト運営経費 他

ただし、アルゼンチンは、独自の予算により、講師派遣、セミナー開催に関する一部負担ができるレベルにあると言える。

(5) カウンターパート機関

本プロジェクトは、各国の以下の獣医学部を有する大学をカウンターパート機関とする。

国名	大学名	実施された JICA プロジェクト
アルゼンチン	ラ・プラタ大学獣医学部	ラ・プラタ大学獣医学部研究計画 (1989～96、2001～03) 第三国集団研修「家畜疾病防除」(1996～2005) 第三国専門家
ボリビア	ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部	ボリビア家畜繁殖改善計画 (1987～94)
パラグアイ	アスンシオン大学獣医学部	パラグアイ家畜繁殖改善計画 (1982～89)
ウルグアイ	共和国大学獣医学部	ウルグアイ獣医研究所強化計画 (1996～2001) (於：農牧水産省家畜サービス総局)

これらの大学をカウンターパート機関とする理由は以下の理由による。

- ① 大学は基礎研究機関であるとともに教育機関である。対象国では大学を卒業し、資格を得た上ではじめて獣医師になれるなど（国のラボラトリー、行政機関勤務の獣医師を含む）、大学は人材育成の拠点となっている。一方、国のラボラトリーには獣医師を研修する機能は有しない。獣医師の（再）教育に関しては、国のラボラトリーよりも大学にノウハウがあると言える。
- ② 各国には、疾病の防除、診断のための国家機関（国のラボラトリー）が設置され、確定診断を行うなどの機能を有しているが、実質的にこれら診断は大学との連携下によって実施されている。また、大学は政府認定（指定）の検査機関として、疾病検査の一部を担っている場合もある。
- ③ 大学教員の国内外の人材ネットワークが活用できる。プロジェクトのため、あらためてネットワークを構築する必要はない。
- ④ 対象4カ国では過去に当該分野の JICA プロジェクトが実施されてきており、特に本プロジェクトに関わる機関のほとんどで、JICA プロジェクトカウンターパートであった人的、物的リソースが活用できる（上表参照）。また、これらカウンターパート機関は、日本の支援の制度、仕組みをある程度理解しており、スムーズなプロジェクト運営が期待できる。

なお、上記カウンターパート機関である4つの大学以外の関係機関の取り扱いについては、一国にカウンターパート機関が複数あると、技術、情報の一元化ができずデータ（情報）が拡散すること、コンセンサス作りに時間がかかることから、プロジェクト開始時点では各国一機関を想定する。そのため、以下の調整方法を取り入れる。

- ① 各国のカウンターパート機関は一（いち）機関とし、その機関には、その国の代表となるナショナル・コーディネータを配置する。
- ② それ以外の家畜衛生関係機関に対しては、カウンターパート機関（ナショナル・コーディネータ）を通じて、情報提供、意見聞き取り、技術指導、共同研究、研修を行う。
- ③ ナショナル・コーディネータは、対象国の窓口、かつ調整役としての機能を担う。

(6) プロジェクト拠点（事務所）

プロジェクトの拠点は、本広域プロジェクトの事務局を担うアルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部内に設置する。

4. プロジェクト実施の方法

4-1 プロジェクト実施構造

(1) プロジェクトの枠組み

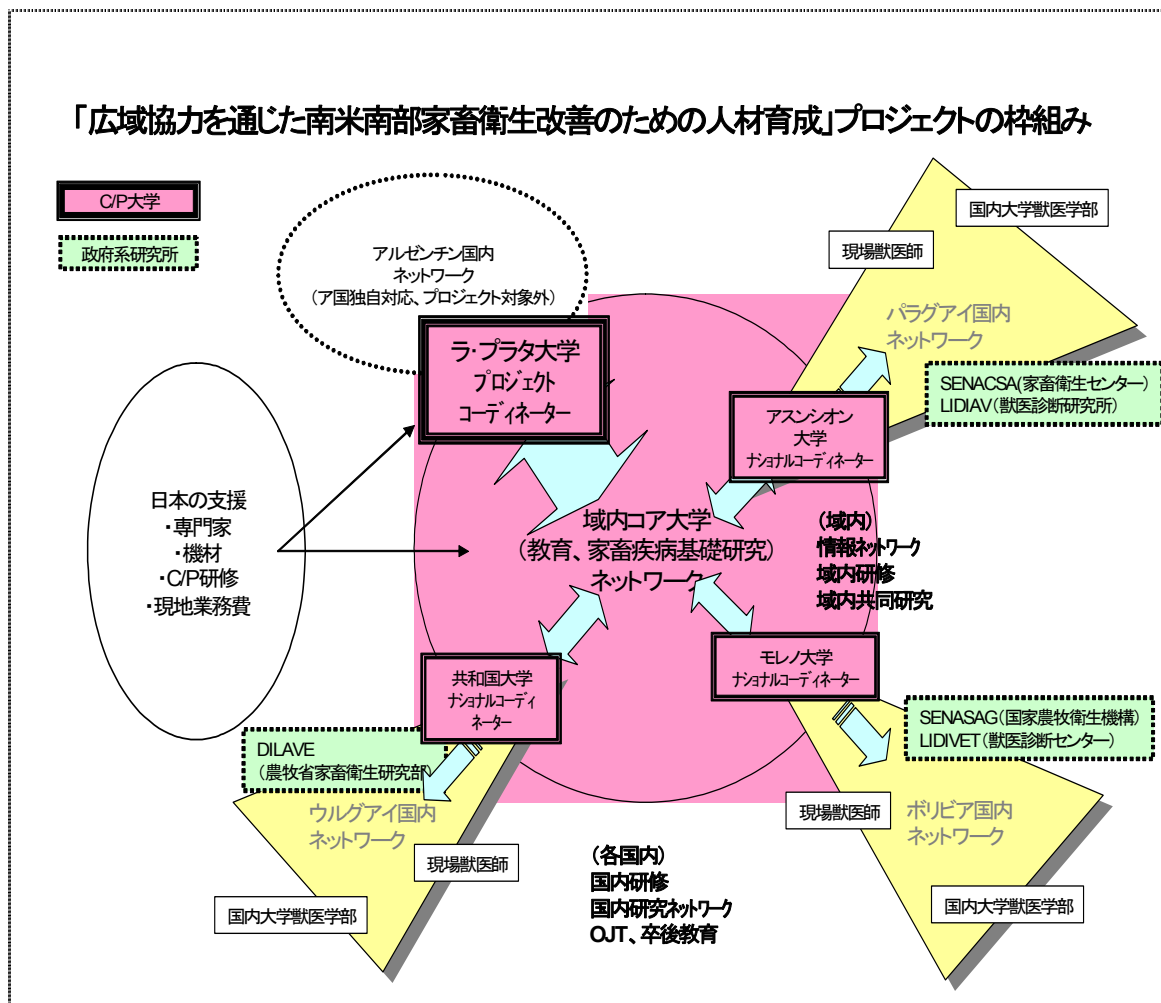
本プロジェクトは広域協力として、拠点国アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ及びウ

ルグアイ各国は対等な立場で参加する枠組みとし、JICA はその枠組みに対して、協力を実施する。

拠点国は、地域協力の枠組みの計画、調整を行う事務局としての役を担い、またリソース（研修での講師など）を提供することとなり、プロジェクト運営においては、一定のリーダーシップが求められる。具体的には、アルゼンチン国ラ・プラタ大学が、プロジェクト事務局、プロジェクト全体に関わるコーディネーターとなる。一方、他 3 カ国は、一つの大学（獣医学部）がプロジェクトのカウンターパート機関兼その国の窓口機関となり、国内の他機関間の調整、連絡を行い、またカウンターパートとして広域協力プロジェクト運営に参画する。

活動レベルで見ると、「各国活動（定義は本報告書 3-3 (4) (b) 参照）」として、カウンターパート大学は、プロジェクト計画書に基づき、国内の試験研究機関や他大学（獣医学部）を取り纏めながら、国内研修、研究のための国内ネットワーク作り、卒業教育などを実施する。一方、「広域活動」として、他国より技術的に進んでいるアルゼンチン国ラ・プラタ大学のアドバイスの下、カウンターパート大学は、情報ネットワーク構築、域内研修、域内の共同研究を進めることになる。

本案件の枠組みを示すと、下図となる。



(2) プロジェクト運営体制

プロジェクトは以下の体制で運営される。

- プロジェクトダイレクター（兼運営委員会議長）：アルゼンチン国ラ・プラタ大学長
- プロジェクトマネージャー：アルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部長
- プロジェクトコーディネーター
 - 総括コーディネーター：アルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部スタッフ 1名
 - 国担当コーディネーター：アルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部スタッフ 計3名
 - 各国ナショナル・コーディネーター：ボリビア国ガブリエル・レネ・モレノ大学 1名、パラグアイ国アスンシオン大学 1名、ウルグアイ共和国大学 1名
- 日本人専門家

(3) プロジェクト合同調整委員会（JCC）

プロジェクトの合同調整委員会は年間一回程度開催される。委員会のメンバーは以下を想定する。

- アルゼンチン：ラ・プラタ大学（兼議長）、ラ・プラタ大学獣医学部関係スタッフ、外務省、(SENASA)、(INTA)
- ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ：各国ナショナル・コーディネーター
- 日本：専門家、JICA 事務所、(日本大使館)

(4) 広域協力による実施の意義

本分野の協力を広域協力にて実施する意義を以下に整理する。

- ① 家畜疾病対策には、国境はない。そのため、家畜疾病を減らすには隣接国との協力、広域な協力が不可欠となる。
- ② 共通基準に基づくレベルアップが必要である。国毎で基準や技術レベルにばらつきがある場合、一定レベルにない国は疾病に対して、他国よりも脆弱であることを意味する。この脆弱さがある限り南米の家畜疾病の発生を抑えることは難しいと言える。アルゼンチンが技術的に先行するのではなく、域内の国が一定水準のレベルに達する必要がある。
- ③ 国境を越える家畜疾病に対しては国毎で対策を講じているのは非効率である。
- ④ 今まで南米各国は、自国の対応に追われてきた。家畜衛生改善に対して共同で対応する意義は理解されているものの、その枠組みを作るまでの機運が見られなかった。日本の協力を契機とすることで、その流れを作り、今後の域内協力推進を図ることになる。

(広域協力と南南協力（整理）)

広域協力と南南協力（今までの南南協力例：第三国研修、第三国専門家）は相反するものではない。

広域協力は、南南協力下で実施されていた様々なコンポーネントをパッケージにし

て支援できる協力形態と理解でき、拠点国（本件の場合はアルゼンチン）が調整してプロジェクトを運営するという考え方は南南協力の考え方と差異はない。そのため、広域協力は南南協力のある種の拡大版と言える。我が国は相手国の主体性に基づき、今までの南南協力と同様、資金や人材のサポート（バックアップ）を実施することとなる。

(5) 日本・アルゼンチン・パートナーシップ・プログラム (PPJA)¹について

本広域協力案件の実施において、アルゼンチン国を拠点国とすることで、我が方は PPJA を活用することが考えられる。そこで、PPJA を活用とする際の利点及び留意点を以下に整理する。

	内 容
PPJA の利点	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゼンチン側オーナーシップの醸成に効果が期待できる ・アルゼンチン側のスキーム、資金の有効活用が可能となる
PPJA の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺各国との調整に時間が必要→現場主導の調整が必要 ・JICA のスキーム（技術協力プロジェクト）との調整を図ること

PPJA 活用には様々な手続きや調整が必要となることから、適切なタイミングで適切な額がプロジェクトに配分されるのかを見極めることは大変難しいと言える。そのため、本案件は、基本的には技術協力プロジェクト予算による対応とし、PPJA については、利用可能な場合のみ活用することとする。

(6) 日本側支援機関

文部科学省（所管）、東京大学（国内委員会）、農林水産省（連携）を想定する

4-2 プロジェクト実施の注意点

(1) 対象となりうる疾病及びその優先順位

ワークショップ、関係者からの聞き取りの結果、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイで対処したいと考えている家畜疾病の順位は以下の通りとなった。

基本的に、プロジェクトはこれらリストの中から指導、技術移転する対象疾病を選択することになる。ただし、プロジェクトの効率的な運営から、一回の実習で複数の家畜疾病に関する技術アップを図ることができる場合、たとえその疾病の優先順位が低い場合でも、他疾病と組合せて、早めに技術指導を行うことになる。

¹ 「日・アルゼンチン・パートナーシップ・プログラム (PPJA)」：2001年5月のアルゼンチン国ジャバリーニ外相訪日の際、署名されたもので、日本とアルゼンチン両国が共同して他の開発途上国の経済社会開発支援を進めていく枠組みのこと。

ボリビア		パラグアイ		ウルグアイ	
1	狂犬病	1	伝染性ブルサ病（ガンボロ病）	1	鳥・馬インフルエンザ
	ニューカッスル病		牛トリコモナス症	2	肝蛭
	肉眼・組織病理学的検査		オーエスキー病	3	馬ヘルペスウイルス感染症
			豚サルモネラ症	4	牛白血病抗原の精製
2	ネオスポーラ症	2	鳥サルモネラ症	5	羊新生仔疾患
	牛伝染性咽喉頭炎		鳥マイコプラズマ症	6	馬ウイルス性関節炎
	牛白血病		寄生虫性疾患	7	トキソプラズマ症
	鶏白血病			8	牛・羊キャンピロバクター感染症
	鳥サルモネラ症			9	マイコプラズマ症
3	重金属中毒	3	肉眼・組織病理学的検査	10	羊ブルセラ病
	鳥インフルエンザ			11	馬ロドコッカス感染症
4	Cisticercosis	4	臨床病理学的検査		
	真菌症				
5	臨床病理学的検査				
	ヨーネ病				
	馬伝染性貧血				

なお、例として、各国でニーズが高い狂犬病、ガンボロ病、鳥インフルエンザ、肝蛭（かんでつ）に対する技術指導項目は、以下となる。

1. 狂犬病	病理学的検査法、染色法、ウイルス分離、抗体価の測定、蛍光抗体法、遺伝子診断法
2. ガンボロ病	抗体価の測定、病理学的検査法、蛍光抗体法、疫学調査
3. 鳥インフルエンザ	ウイルス分離、抗体価の測定、蛍光抗体法、遺伝子診断
4. 肝蛭（かんでつ）	糞便検査、皮内反応、抗体価の測定

(2) 専門家派遣と研修実施のタイミング、その組み立て

現地国内研修、域内研修と専門家派遣は有機的に、かつ戦略的に組み合わせて実施する。下図はその例である。

a) 研修例：狂犬病対策

形態	域内研修
実施時期	XXXX年3～5月
研修実施場所	ボリビア
研修受講者（対象者）	狂犬病対策へのニーズが高いボリビアとパラグアイの獣医師等（そのため、パラグアイ受講生はボリビアに移動）
研修講師	既に知見を有するウルグアイとアルゼンチンのスタッフを講師としてボリビアに派遣

↓ (Next)

形態	国内研修
実施時期	XXXX年10月(ボリビア)、XXXX年12月(パラグアイ)
研修対象者	ボリビア、パラグアイのその他の獣医師等
研修講師	域内研修を受講したボリビア、パラグアイの獣医師及びアルゼンチンのスタッフが講師として応援に入る

b) 研修例：鳥インフルエンザ対策

形態	域内研修
実施時期	XXXX年3～5月
研修実施場所	アルゼンチン
研修受講者(対象者)	ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの獣医師等
研修講師	既に知見を有するアルゼンチンのスタッフを講師とする

↓ (Next)

形態	国内研修
実施時期	XXXX年7月(ウルグアイ)、XXXX年9月(ボリビア)、XXXX年12月(パラグアイ)
研修対象者	ウルグアイ、ボリビア、パラグアイのその他の獣医師等
研修講師	域内研修を受講したボリビア、パラグアイ、ウルグアイの獣医師及びアルゼンチンのスタッフが講師として応援に入る

c) 研修例：肝^{かん}蛭^{てつ}対策

形態	日本人専門家による指導
実施時期	XXXX年3～5月
研修実施場所	アルゼンチン
研修受講者(対象者)	アルゼンチンの獣医師等
研修講師	日本人専門家

↓ (Next)

形態	域内研修
実施時期	XXXX年7～9月
研修実施場所	ウルグアイ
研修受講者(対象者)	ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの獣医師等
研修講師	日本人専門家(または、日本人専門家から技術指導を受けたアルゼンチン獣医師)

↓ (Next)

形態	国内研修
実施時期	XXXX年11月(ウルグアイ)、XXXX年12月(ボリビア)、XXXX年1月(パラグアイ)
研修対象者	ウルグアイ、ボリビア、パラグアイのその他の獣医師等
研修講師	域内研修を受講したボリビア、パラグアイ、ウルグアイの獣医師及びアルゼンチンのスタッフが講師として応援に入る

これらをイメージにまとめると次図になる。

広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト 研修実施の方法について（イメージ図）

	疾患名	実施場所	XXXX年										XXXX年				
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
アルゼンチン	狂犬病																
	Garbora病		専門家派遣(P)														
	鳥インフルエンザ	アルゼンチン	研修受入(U,B,P)														
	肝蛭	アルゼンチン	診断技術研修														
			(日本人専門家)														
ウルグアイ	狂犬病		専門家派遣(B)														
	Garbora病		研修生派遣(P)														
	鳥インフルエンザ		研修生派遣(A)														
	肝蛭	ウルグアイ															
ポリビア	狂犬病	ポリビア	診断技術研修														
	Garbora病		研修生派遣(P)														
	鳥インフルエンザ		研修生派遣(A)														
	肝蛭		研修生派遣(L)														
パラグアイ	狂犬病		研修生派遣(B)														
	Garbora病	パラグアイ	診断技術研修														
	鳥インフルエンザ		研修生派遣(A)														
	肝蛭		研修生派遣(L)														

 : 研修実施国・実施場所
 : アルゼンチン、ウルグアイから研修実施国への専門家（講師）派遣
 : 研修受け入れ
 : 研修生派遣
 : 研修
 : 日本人専門家によるアルゼンチン向け研修
A: アルゼンチン、B: ポリビア、P: パラグアイ、U: ウルグアイを示す

5. 事前評価での評価5項目分析

5-1 妥当性

本案件は以下の点から実施の妥当性があると考えられる。

- 本案件の対象 4 カ国において、畜産業は重要な産業で社会経済に与える影響が大きい
ため、いずれの国においても家畜衛生の分野は政策的に重要な位置を占めている。また、域内の共通疾病の発生・流行は当該国だけに留まらず国際問題に発展しうるため、疾病対策は域内の共通課題との認識が高い。本案件は、この共通の課題に広域的に対応するものである。
- 南米地域においては、域内協力の促進、域内統合化への対応が我が国の協力の柱となっている。本案件はアルゼンチン国を核とした南南協力を活用し、広域的に協力を実施するものであり、この我が国の協力の柱に合致している。また対象 4 カ国に対する JICA の援助重点分野及び協力の方向性にも合致している。
- 域内の共通疾病のリスクを軽減するためには、現場の獣医師の診断能力の低さは大きな課題として指摘されており、現場の獣医師の再教育というアプローチは適切であると判断される。
- 我が国には、近年の自由貿易の進展から、動物性食品の安全性確保や人獣共通感染症の制圧に関連する分野に従事する獣医師の養成に特化した専門職大学院が設置されている。また大学、研究機関や獣医師会が主催する、現職獣医師に対する多様な研修や専門医認定制度が設定されている。このような獣医師の卒後継続研鑽に係る我が国の知見・経験が本案件に利活用しうると考えられる。

5-2 有効性の予測

以下の点から、案件の有効性が確認される。

- 本案件の立案にあたり、アルゼンチン国ラ・プラタ大学をはじめとした各国の大学及び関係機関は、事前評価調査段階から議論を重ねている。関係者のプロジェクト実施への関心の度合いは高く、プロジェクト開始後も関係者の連携協調体制は維持される可能性が高い。
- 本案件では対象 4 カ国に対し家畜衛生人材の育成に係る個々の目標を設定し、またアルゼンチン国には拠点国として、広域連携の整備に係るより高水準の目標を別途課している。広域案件のプロジェクト目標を達成するために、必要な協力の枠組みが構築されている。
- 各国のサブプロジェクト目標を達成するために、それぞれの協力活動及びその成果が過不足なく設定されている。アルゼンチンの「ラ・プラタ大学獣医学部に域内家畜衛生人材育成センターとしての機能整備」というサブプロジェクト目標に対しては、育成センター運営を担う人材と環境の整備という国内の基盤強化の面と、広域調整システムの確立等などの国際の基盤強化という双方の整備、強化を行うことが必要である。本案件はその双方の要素に働きかけることによりアルゼンチンのサブプロジェクト目標の達成をより確実なものとしている。また、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの「家畜疾病診断能力の向上」というサブプロジェクト目標に対しては、大学、研究所、現場のそれぞれの獣医師の能力向上という個人・組織の能力向上のみならず、広域協力を通じて国レベルの能力向上が必要である。本案件はその双方に働きかける計画であり、それぞれの国のサブプロジェクト目標達成を確実なものとしている。
- 本案件では、裨益対象者に大学教官から生産現場の獣医師まで多様な人材を設定しており、これは各診断段階の技術を強化する方策として適切な方法と考えられる。
- 将来的に南米南部地域における畜産業の社会経済的重要性の大幅な変化が考えにくいため、当該産業に資する家畜衛生の政策的位置付けが変わらないことが見込まれ、案件の外部条件が満たされる可能性は高い。

5-3 効率性の予測

以下の点から、効率的な案件の実施が可能と考えられる。

- 広域協力の拠点となるアルゼンチン国ラ・プラタ大学を筆頭に対象 4 カ国の家畜衛生・生産関係機関には、我が国の技術協力によって育成された人材を有する。これら既存の協力資源を有効に活用することにより、プロジェクト活動を効率的に行うことが期待できる。
- 機材についても、これまでの協力により供与された施設、機材を活用することを原則としている。国際基準に適合した診断・研究に向けた環境整備は、既存ラボに対しての生物安全上の配慮及び未整備ラボに対しての必要最低限の投入とし、大がかりな施設、機材投入はない。本案件実施により、これまでに供与された施設、機材の稼働率が高まる。
- 本邦からの長期派遣専門家は疫学情報資源整備とプロジェクト運営管理の分野を兼任する一名とし、その投入を最小限に抑えて実施する。

5-4 インパクトの予測

この案件のインパクトは以下のように予測できる。

- 情報ネットワーク上には、プロジェクト策定の診断マニュアル・研修教材のライブラリや疫学情報データベースを設置し、適正診断に資する科学的根拠を提供する。また、類似の症例を経験する獣医師等に意見を仰ぐためのメーリングリスト等を開設する。情報ネットワークの構築により、本来の裨益対象者たる「診断を行う獣医師」のみならず、行政、試験研究機関に所属する獣医師や域内の家畜生産者に対しても広く便益が及ぶことが期待できる。
- インターネット利用による情報ネットワークの構築は、域外国からのアクセスをも可能にし、他中南米諸国の関心の度合いを高め、将来的に対象 4 カ国以外の国に「根拠に基づく適正診断の考え方」が波及する可能性は高い。
- 本案件で実施される研修による人的交流が促進され、さらに構築される情報ネットワークを活用して日頃から各国との密な連携を取り、情報を共有することは、疾病発生時における共同での対策を円滑に実施できる可能性が高まる。
- 上位目標である「域内の診断適正化」は、診断に資する科学的根拠を継続して公開し、情報の刷新をも併せて行うネットワーク体制を整備すること及び域内の疾病リスク軽減には診断法の共通化が一定程度必要であり、そのための卒後研鑽を域内各国が協調して継続する見込みが高いことから、プロジェクト終了後、数年内に実現できる可能性が高い。

5-5 自立発展性

本案件の自立発展性は、以下のとおり予測される。

- アルゼンチン国教育科学技術省は、本案件の重要性を十分に認識し積極的に支援する意向である。本案件活動の一つである卒後研修に関し、プロジェクト終了後にも継続できるよう制度化を検討している。将来は、他の中南米諸国へも研修参加を拡大したいとの意欲を示していることから、終了後も、支援が得られる可能性は高い。
- アルゼンチン国ラ・プラタ大学は、本案件を学内の最優先プロジェクトと位置付け、獣医学部本体の通常予算とは別途の予算計上を決定している。また教育省に特別の予算措置を要請していることから、同国における自立発展性は高い。しかしながらラ・プラタ大学を除く各国大学の予算は総じて少なく、継続的な注視が必要である。
- 協力相手先機関たる各国の大学獣医学部は、家畜衛生の重要性が高い南米南部地域において、当該分野の教育・研究・普及を担う主体機関として重要な役割を担っており、これら機関の恒久的な存続がほぼ保障されていると考えられる。また、大学教官の定着状況は一般に良好であることから、移転された技術の定着の度合いは高いと考えられる。
- 南米南部地域の獣医学関係者間には、既に人的ネットワークが存在する。また、プロジェクトにより構築する情報ネットワークに対しては、ラ・プラタ大学をモデレータとする維持管理を予定しており、プロジェクト終了後もその運用は継続的に実施される。

6. 広域協力プロジェクト実施における手続きの留意点

本案件は広域協力プロジェクトと称しているが、広域技術プロジェクトの実施方法の定型がないため、既設の広域プロジェクト同様に、プロジェクトは既存の二国間援助による技術協力のガイドラインや枠組みに則って実施することになる。本章では、専門家派遣、本邦研修、現地業務費、機材供与別にそれぞれの投入形態別に想定される手続きを整理する。(なお、これら手続きについては、規定やガイドラインの変更に伴って、大幅に変更される可能性があるため、注意が必要)

6-1 協力スキーム

本案件の枠組みは、先例(「タイ及び周辺国における家畜疾病防除計画」プロジェクト等)に従い、日本とアルゼンチン国とは2国間の技術協力プロジェクトの実施協議議事録(R/D)にて取り決め、他3カ国に関しては、それぞれ、日本と当該国に、アルゼンチンを加えた3カ国の会議議事録(ミニッツ)にて取り決め、署名を行うこととする(なお、今後の広域技術協力のあり方の整理に伴い、署名方法が変更される場合もある)。

予算上、本案件は、日本とアルゼンチンとの2国間技術協力のプロジェクト経費を活用して実施することとし、これはボリビア、パラグアイ、ウルグアイに対する協力経費もカバーする。つまり、アルゼンチン以外の3カ国への協力については、アルゼンチン経由の間接的な協力となる。

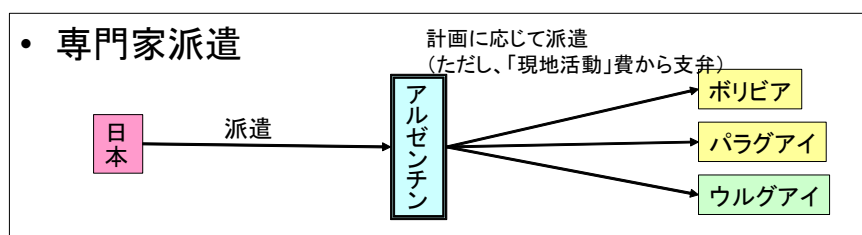
6-2 投入形態別手続き

(1) 専門家派遣

専門家は、プロジェクト計画(年間計画、活動計画等)に基づいて派遣される。

専門家は、アルゼンチンを拠点(任国)とし、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイでの進捗管理、技術指導は、業務出張(任国外出張)ベースで実施する。そのため、原則、日本人専門家は、アルゼンチンを任国とする。

なお、公用旅券で赴任する短期専門家がアルゼンチン以外の3カ国で技術指導を行う際、旅券の渡航先に記載されていないと、これらの国で技術指導できなくなる可能性があるため、本邦出発時の手続きに注意を要する。

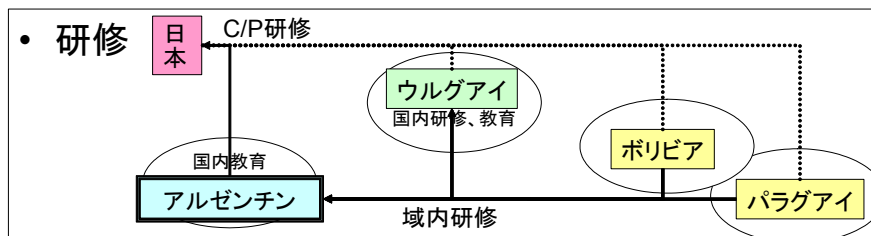


(2) 研修

域内研修、国内研修は、技術協力プロジェクト経費(現地活動費、在外研修費)を活用する。

また、本邦研修については、既述の通り、域内研修、国内研修の機会を多くの対象国の獣医師に提供する方針であることから、本邦研修の実施は極力抑えることとする。ただし、

ボリビア及びパラグアイのカウンターパートに対しては、他 2 ヶ国と比較して、より技術レベルのアップが必要であることから、プロジェクトの進捗状況を確認し、本邦研修を実施することを検討するが、その場合でも、日本とこれらの国とは実施協議議事録（R/D）の交換がないため、要請書（A2A3 フォーム等）の取り扱いなど本邦研修実施方法について、整理、調整が必要となる。

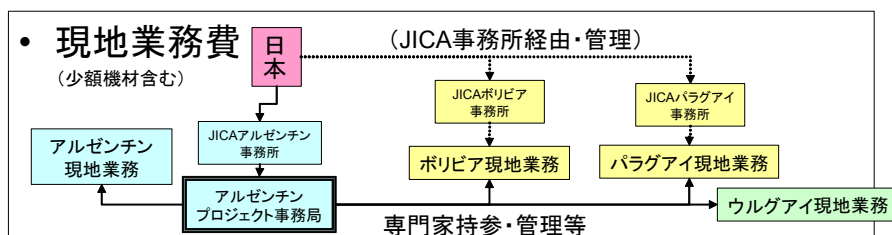


(3) 現地業務費

現地業務費は、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイの各 JICA 事務所が管理する。

ただし、JICA 事務所が設置されていないウルグアイを含む対象 4 ヶ国で、少額で実施する活動（現地調査、現地セミナー開催など）については、専門家が臨時会計役として、業務費を持参し、支出する場合もある。

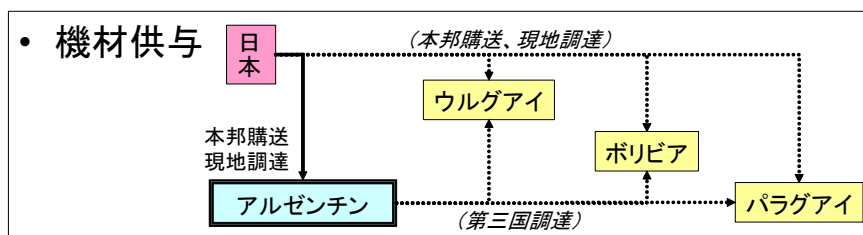
なお機材調達のうち、20 万円未満の資機材は、現地業務費で調達することとする（2004 年 11 月現在のガイドラインに準拠）。



(4) 機材供与

20 万円以上の機材は、技術協力プロジェクト経費（機材）を活用し、現地購入（調達）を基本として、調達する。ただし、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ向けの機材で現地調達が難しい場合は、アルゼンチンでの第三国調達を検討する。

なお、仮にこれら 3 ヶ国に対して、本邦購送（日本で購入し輸送する）を行う場合、我が国とこれらの国間の実施協議議事録（R/D）がないため、機材輸入の特権免除が受けられない可能性があるが、関係者と協議を行い、対応を総合的に判断することとする。



7. まとめ (団長所感)

① プロジェクト実施の意義

プロジェクトの各国別（アルゼンチンを含む）活動計画が、域内各国及び地域全体のニーズを踏まえた形で整理されたことで、当初から想定していた域内の共通の課題に対するアルゼンチンの人材を活用した協力の妥当性、効率性が改めて証明されたといえる。

広域協力については、2国間協力と異なり、スキーム上も、プロジェクト実施の上で大きな制約や困難が予想されるが、本プロジェクトにおいて、これまでの2国間協力による蓄積と地域の特性を生かした広域協力により、大きな成果が期待できれば、今後の広域協力の試金石となりうる。

② 関係各国間の意識の向上

本プロジェクトは、周辺3カ国のプロジェクトの枠組み、活動に対する理解と連携・調整機能が重要なポイントになる。そのため、プロジェクト実施時には関係国から、その国の代表となる「各国ナショナル・コーディネーター」を選任することとしている。

これを受け、2003年の第一次事前評価調査時には、各国に前倒しで実質的な「コーディネーター」を選任するように依頼を行い、関係国の獣医学部長クラスが任命された。彼らが実質的な各国の代表として、継続して機能していることで、2003年12月のワークショップから、2004年8月のワークショップを経て、今回の調査までの一連の協議において、連続性が保たれることとなった。

この様な協力体制を今後とも良い形で継続していくことが、本プロジェクト域内における成果の発現に大きく貢献するものと思われる。

③ ラ・プラタ大学獣医学部の一層のリーダーシップの発揮

2003年12月以降、一連のワークショップ(ブレインストーミングから活動計画策定まで、様々なレベルが含まれる)を行い、ラ・プラタ大学のプロジェクト関係者は、これを主体的に運営してきた。域内各国の実情を把握し、調整を行うことは、これまでの技術協力を通じて人材が育成されてきたとは言え、容易でない作業となる。事実、2003年12月のワークショップでは、十分なオーナーシップが発揮されているとは言い難い場面も見られた。

しかしながら、これまでの一年間の作業を通じ、また獣医学部内に各国のプロジェクトを調整する担当者を配置するなど、より戦略的な体制をとることで、広域プロジェクトの実施主体として、域内各国の実情を十分把握してきているとの印象を持った。

今後、プロジェクトの活動を具体的に策定していく中で、域内各国の実情の理解度が検証される形になるが、域内のリーダーとして、ラ・プラタ大学獣医学部が、より一層のリーダーシップを着実に発揮していくことが望まれる。

以上

付 属 資 料

1. 事前評価調査（第二次）日程	175
2. 主要面談者リスト	176
3. 第二次事前評価調査署名ミニッツ	177
4. プロジェクト全体版 PDM（和訳）	225
5. アルゼンチン版 PDM（和訳）	227
6. ボリビア版 PDM（和訳）	230

*パラグアイ版、ウルグアイ版はボリビア版とほぼ同一なので省略

1. 事前評価調査（第二次）日程

全体日程：2004年9月27日～10月16日（20日間） 団員：4名

日目	月日 (曜日)	日程（「団長・総括」、「家畜疾病防除」、 「協力計画」団員）	日程 「評価分析」団員	行程・宿泊地
1	9/27 (月)		・成田発 18:00→ (AA060 便) →ダラス着 15:30 ・ダラス発 19:35→ (AA997 便) →	(機中泊)
2	9/28 (火)		・→ブエノスアイレス着 08:09 ・JICA 事務所打合わせ	
3-5	9/29 (水) -10/1 (金)		・現地調査 ・事前ワークショップにより 作成された PDM 案の分析 ・PDM 検討会議（全体、各国別） ・PDM 案の見直し、改定案作成	ブエノスアイレス/ ラ・プラタ
6-7	10/2 (土) -10/3 (日)	・成田発 (10/3 日曜日 19:10) → (JL048 便) → ニューヨーク着 18:40	・収集資料の整理	ニューヨーク
8	10/4 (月)	AM: ・ニューヨーク発 09:00 頃 (AA955 便のトラブルにより約 12 時間遅れ) PM: ・ブエノスアイレス着 21:30 頃 (AA955 便) ・団内打ち合わせ ・JICA 事務所長、担当職員との打合せ（於：宿泊ホテル） (在アルゼンチン日本大使館への説明は JICA 事務所長が対応)		ブエノスアイレス
9	10/5 (火)	AM: ・ラ・プラタへ移動 ・10:30 ラ・プラタ大学表敬、調査説明 PM: ・関係者全体ワークショップ <調査方針、協議方法、ミニッツの説明等> ・パラグアイ、ウルグアイ、ボリビア各国のコーディネーター、関係者と各国別協議 <各国 PDM 活動内容、指標等の協議>		
10	10/6 (水)	・パラグアイ、ウルグアイ、ボリビア各国のコーディネーター、関係者と各国別協議 <各国 PDM 活動内容、指標、投入内容、隣国との調整体制の確認、対象疾病の優先順位の再確認> ・関係者会議 <プロジェクト PDM 案、各国 PDM 案の説明>		ラ・プラタ
11-12	10/7 (木) -10/8 (金)	・アルゼンチン関係者との協議 <アルゼンチン版 PDM の内容検討、各国との調整方法等の確認、資機材の検討、 担当家畜疾病の協議等> ・ミニッツ（第一次案）作成		
13	10/9 (土)	・ブエノスアイレスに移動 ・各種資料作成、資料整理		
14	10/10 (日)	・資料整理		
15	10/11 (月)	・団内作業：各国 PDM、全体 PDM 案の最終版作成、ミニッツ案作成		ブエノスアイレス
16	10/12 (火)	午前：ミニッツ（第二次案）作成 午後：関係者協議、コメント取りまとめ アルゼンチン文部省表敬、協議内容説明		
17	10/13 (水)	午前：・ミニッツ案最終協議 ・ミニッツ署名 ・JICA アルゼンチン事務所報告 午後：・在アルゼンチン日本大使館報告 ・ブエノスアイレス発 19:05→ (AR1212 便) →モンテビデオ着 19:50 ・在ウルグアイ日本大使館報告（協議結果、今後の予定の説明）		モンテビデオ
			「評価分析」団員 ブエノスアイレス発 21:15→ (UA846 便) →	
18	10/14 (木)	午前：・ウルグアイ共和国大学表敬、協議、大学 施設見学 午後：・農牧省獣医研究所協議、施設見学 ・モンテビデオ発 17:50→ (AA900 便) →18:37ブエノスアイレス着 ・ブエノスアイレス発 20:20→ (AA956 便) →	→ワシントン DC 着 06:55 ワシントン DC 発 12:20→ (NH001 便) →	(機中泊)
19	10/15 (金)	→ニューヨーク着 06:05 ・ニューヨーク発 13:30→ (JL005 便) →	午後：成田着 15:20	(機中泊)
20	10/16 (土)	午後：→成田着 16:20		

2. 主要面談者リスト（敬称略）

A. アルゼンチン

1. 教育科学技術省 (Ministry of Education, Science and Technology)
Juan Carlos Pugliese 長官
Lic. Gabriela SIUFI 国際協力担当
2. ラ・プラタ大学
Gustavo A. AZPIAZU 大学長
Edgardo Omar NOSETTO 獣医学部長
Eduardo PONS 渉外担当事務局長
Miguel PETRUCCELLI 教授
Marcelo PECOPARO 教授
Rogelio BRUNIARD 渉外担当事務局コンサルタント
3. 在アルゼンチン日本大使館
大部一秋 公使
城崎和義 書記官
4. JICA アルゼンチン事務所
高井正夫 所長
山本フアンカルロス 技術協力総括班長
隈部ビクトル 担当所員
布施和博 企画調査員

B. ウルグアイ

1. 共和国大学
Fernando Riet 獣医学部長代理
Maria Helena Guarino 獣医学部教授（ウルグアイ国カウンターパート）
Eugenio PERDOMO 獣医学部教授
（プロジェクト・ナショナル・コーディネーター）
2. 農牧水産省獣医研究所（DILAVE）
Victor Lyford Pike 所長
3. 在ウルグアイ日本大使館
林 政益 書記官
4. JICA シニアボランティア
酒井博史 シニアボランティア（家畜衛生）

C. ワークショップ参加者

1. パラグアイ
Kenji Yamamoto JICA パラグアイ事務所担当職員
Luis ACUNA アスンシオン大学獣医学部 副学部長
（プロジェクト・ナショナル・コーディネーター）
2. ボリビア
Isabel Aquilera Luintana ガブリエル・レ・モレノ大学獣医学部 副学部長
（プロジェクト・ナショナル・コーディネーター）
3. ウルグアイ
（上記ウルグアイ面会者と重複するため記載せず）

3. 第二次事前評価調査署名ミニッツ

MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN
THE 2nd JAPANESE PREPARATORY STUDY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE ARGENTINE REPUBLIC
ON
THE PROJECT OF THE CAPACITY DEVELOPMENT FOR IMPROVEMENT OF
LIVESTOCK HYGIENE IN SOUTHERN PART OF SOUTH AMERICA
THROUGH REGIONAL TECHNICAL COOPERATION

The Government of the Argentine Republic has made a proposal for Regional Technical Cooperation Project to the Japanese Government entitled: "The Regional Project for Improvement of Veterinary Diagnostic Technique in Southern Part of South America" (hereinafter referred to as "the Project").

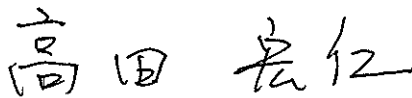
In response to the Project Proposal, the Government of Japan has decided to conduct a Preparatory Study and entrusted the Japan International Cooperation Agency (JICA) to conduct the Study.

JICA has assigned the 2nd Preparatory Study Team for the Project (hereinafter referred to as "the Team"), headed by Mr. Hirohito TAKATA, Chief of Field Crop Based Farming Area I and II Team, Rural Development Department, which performs its assigned duties from September 28, 2004 to October 13, 2004.

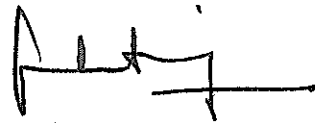
During its stay in the Argentine Republic, the Team had a series of discussions with officials concerned of the Government of the Argentine Republic and neighboring countries and conducted field surveys.

The major items discussed are found in the attached documents.

Buenos Aires, October 13, 2004



Mr. Hirohito TAKATA
Leader
Preparatory Study Team
Japan International Cooperation Agency
JAPAN



Arq. Gustavo A. Azpiazu
President
National University of La Plata
The Argentine Republic

THE ATTACHED DOCUMENT

ACRONYMS AND ABBREVIATIONS

FCV	Facultad de Ciencias Veterinarias (Faculty of Veterinary Sciences)
JICA	Japan International Cooperation Agency
MERCOSUR	Mercado Comun del Cono Sur
PDM	Project Design Matrix
R/D	Record of Discussions
UNLP	Universidad Nacional de La Plata (National University of La Plata)

1. BACKGROUND

Livestock is a key industry in South American countries, and the impact of the industry on the economies of these countries is growing larger as the distribution of live animals and livestock products within the region gains increased momentum amid economic integration under MERCOSUR.

However, as economic activity within the region heats up through economic integration, occurrence of foot-and-mouth disease and other serious livestock diseases is leading to restrictions being placed on the distribution of livestock products among other measures. These measures are in turn having a major economic impact on each country.

On top of this, there are significant disparities among the various countries in terms of their ability to diagnose livestock diseases and control infectious diseases. Furthermore, each country has become preoccupied with supervising its own borders. Thus, the implementation of joint measures to establish technology and systems for the control of livestock diseases in a manner that crosses national boundaries has become an urgent task.

2. PROGRESS OF STUDY

With this situation in mind, JICA collected basic information necessary to a) gain of a grasp of the livestock hygiene situation as well as needs for livestock disease control in The Argentine Republic, The Republic of Bolivia, The Republic of Paraguay and The Oriental Republic of Uruguay and b) conduct a study on possibilities for collaboration among these countries and to study regional technical cooperation toward control of livestock diseases.



This resulted in the clear realization that efforts to deal with livestock diseases are of prime importance in each of these countries, and that the FCV, the UNLP, which has been the recipient of Japanese cooperation since 1989, has sufficient technical capacity, experience, and willingness to serve as a base for regional cooperation.

The implementation capacity and inclination of the aforementioned UNLP were reconfirmed in a final evaluation for aftercare cooperation that was conducted in February, 2003.

Since completion of the study, the FCV of the UNLP conducted its own study of the needs of neighboring countries, and based on this, it made a formal request to Japan for the "Project for the Control of Livestock Diseases in South America" as a form of region-wide cooperation. This request sets the establishment of livestock disease control technology and systems as the project's overall goal and sets human resources development in related organizations (and universities, in particular) as a specific activity. These points are in nearly perfect agreement with the above-mentioned opinion of the study team.

Based on this request, JICA dispatched the 1st preparatory study team in 2003 and the 2nd preparatory study team in 2004 to determine the validity of the project, to design the project plans of each country and to conduct a preliminary evaluation through discussions with relevant personnel and an on-site study.

3. PURPOSES OF THE 2nd PREPARATORY STUDY TEAM

The Objectives of the Study are:

- (1) to assess project's feasibility in consideration of related country's technical level, organization, society and economic situation,
- (2) to formulate the Project Plans jointly with the parties concerned through workshops/talks and make Master Plan (M/P), Project Design Matrix (PDM),
- (3) to sign and exchange the Minutes of Discussions which cover agreed M/P and PDM.

4. FRAMEWORK OF THE PROJECT

4-1. Cooperation between JICA and Argentine Government

4-1-1 Bilateral Cooperation between the Argentine Republic and Japan



(1) The Government of the Argentine Republic will implement The Project of the Capacity Development for improvement of Livestock Hygiene in Southern Part of South America through Regional Technical Cooperation Project (hereinafter referred to as “the Project”) in cooperation with JICA.

(2) The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex 1. The framework of the Project will be confirmed when the R/D is signed.

4-1-2 Regional Technical Cooperation

(1) The Government of the Argentine Republic and Japan will jointly implement the Project in the scope of the Project Plan with exploiting the Partnership Program of Japan and the Argentine Republic (PPJA).

(2) The Argentine Republic, as a core country, will play a leading role in extending the output of the Project as well as the achievements of past Argentine-Japanese Technical Cooperation implemented in this sector into neighboring countries (the Republic of Bolivia, the Republic of Paraguay and the Oriental Republic of Uruguay).

4-2 Measures to be taken by JICA

In accordance with the laws and regulations in force in Japan and the provisions of Article of the Agreement, JICA, as the executing agency for technical cooperation by the JAPAN, will take, at its own expense, the following measures according to the normal procedures of its technical cooperation scheme.

(1) Dispatch of Japanese Experts


JICA will provide the services of the Japanese experts as listed in Annex 4.

(2) Provision of Machinery and Equipment

JICA will provide machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project.

(3) Training of Personnel in Japan

JICA will receive the personnel connected with the Project for technical training in Japan.

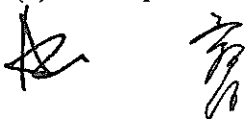


4-3 Measures to be taken by the Government of the Argentine Republic

- (1) The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to ensure that the self-reliant operation of the Project will be sustained during and after the period of Japanese technical cooperation, through full and active involvement in the Project by all related authorities, beneficiary groups and institutions.
- (2) The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Argentine personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
- (3) The Government of the Argentine Republic will grant in the Argentine Republic privileges, exemptions and benefits to the Japanese experts and their families.
- (4) The Government of the Argentine Republic will take the measures necessary to receive and use the equipment provided by JICA and equipment, machinery and materials carried in by the Japanese experts.
- (5) The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Argentine personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
- (6) The Government of the Argentine Republic will provide the services of Argentine counterpart personnel and administrative personnel.
- (7) The Government of the Argentine Republic will provide the buildings and facilities.
- (8) The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to supply or replace at its own expense machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the Equipment provided by JICA.
- (9) The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to meet the running expenses necessary for the implementation of the Project.

4-4 Administration of the Project

- (1) President of the National University of La Plata, as the Project Director, will bear overall responsibility for the administration and implementation of the Project.
- (2) Dean of the Faculty of Veterinary Science of the National University of La Plata, as the Project Manager, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.
- (3) The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the



Project Director and the Project Manager on any matters pertaining to the implementation of the Project.

(4) The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to Argentine, Bolivian, Paraguayan and Uruguayan counterpart personnel on technical matters pertaining to the implementation of the Project.

(5) For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established.

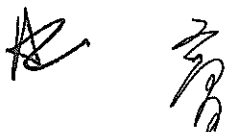
5. RESULTS OF WORKSHOPS / DISCUSSIONS

The Team held a planning workshops and discussions at the FCV of the UNLP, the Argentine Republic, with the participation of concerned project stakeholders. Participants are from 4 countries in Southern Part of South America, which are Argentina (6 persons), Bolivia(1 person), Paraguay (1 persons) and Uruguay (2 persons), representing each governmental organization and university, in addition to Japanese stakeholders such as Embassy's officials and JICA Office staffs. The total number of participants was 17. The workshops and discussions were conducted from September 29 to October 8, 2004.

The workshops and discussions consisted of Project Plan formulation, targeted livestock diseases selection for respective countries, Input examinations from/to target countries acquired for implementation of the project activities. Each process was proceeded based on participants' consensus. At the end of the workshops and discussions, the tentative PDMs were elaborated as shown in ANNEX 2-1 (PDM General), 2-2 (PDM for Argentina), 2-3 (PDM for Bolivia), 2-4 (PDM for Paraguay) and 2-5 (PDM for Uruguay) and the tentative Plan of Operation as shown in ANNEX 3.

As illustrated on the PDM, the Project aims at the human resource development and the institutional development, which are targeting on the veterinarian personnel to improve Livestock Hygiene in 4 South America countries through the regional technical cooperation, and in longer term, reducing livestock diseases common in the region with regional collaboration.

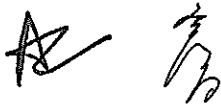
On a series of workshops and discussions conducted for this several years, a) Japanese



Experts, b) Counterparts and Administrative Personnel, c) Member of Steering Committee, d) Machinery and Equipment, e) Project Land, Building and Facilities, f) Targeted Livestock Diseases for each country and g) High Priority Livestock Disease targeted in the 1st-year of the Project were discussed with stakeholders and developed as shown in from ANNEX 4 to ANNEX 10, respectively.

6. JOINT EVALUATION FOR THE PROJECT

Evaluation of the Project will be conducted jointly by the two Governments through JICA and the Argentine authorities concerned, at the middle and during the last six month of the cooperation term in order to examine the level of achievement.



ANNEX LIST

1. MASTER PLAN
2. PDM
 - 2-1 PDM GENERAL
 - 2-2 PDM FOR ARGENTINA
 - 2-3 PDM FOR BOLIVIA (Spanish Version)
 - 2-4. PDM FOR PARAGUAY (Spanish Version)
 - 2-5 .PDM FOR URUGUAY (Spanish Version)
3. TENTATIVE PLAN OF OPERATION (PO)
4. TENTATIVE LIST OF JAPANESE EXPERTS
5. LIST OF COUNTERPARTS AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL
6. TENTATIVE MEMBER LIST OF STERRING COMMITTEE
7. TENTATIVE LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT
8. TETATIVE LIST OF LAND, BUILDING AND FACILITES
9. LIST OF TARGETED LIVESTOCK DISEASES FOR EACH COUNTRY
10. LIST OF 1ST PRIORITY LIVESTOCK DISEASES FOR THE 1ST YEAR OF THE PROJECT AND THE WORKING COUNTRIES



ANNEX 1 MASTER PLAN

A. BILATERAL COOPERATION BETWEEN THE ARGENTINE REPUBLIC AND JAPAN

I. Overall Goal

Diagnosis for livestock diseases is adequate in the region.

II. Project Purpose

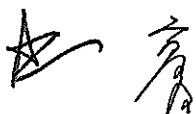
The capacity of the Faculty of Veterinary Science of UNLP is strengthened as the human resources development center for livestock hygiene in the southern part of South America.

III. Output of the Project

1. The capacity of teaching staff in the Faculty of Veterinary Science of UNLP is improved.
2. Conditions are improved for diagnosis and research which are conformed to the International Standard for livestock health in the southern part of South America.
3. Regional Information Network is formed.
4. Regional coordination system is established.
5. Research groups are formed in the region.
6. Postgraduate exchange programs are conducted in the regional network.

IV. Activities of the Project

1. The capacity of teaching staff in the Faculty of Veterinary Science of UNLP is improved. (Argentina)
 - 1-1. To take courses of new techniques (e.g. vaccination production, statistics/crisis analysis, GIS and etc)
 - 1-1-1. To determine course theme
 - 1-1-2. To determine the subjects and lecturer (e.g. Japanese expert)
 - 1-1-3. To take the courses
 - 1-2. To form working groups for information management
2. Conditions are improved for diagnosis and research which are conformed to the International Standard for livestock health in the southern part of South America. (Argentina)
 - 2-1. To integrate the functions of the existent laboratories in the University



Annex1-1

- 2-2. To set up the biohazard-oriented Central Laboratory for human resource development
 - 2-2-1. To improve the Central Laboratory conformed to the International Standard
 - 2-2-2. To establish laboratory administration system
 - 2-2-3. To train human resource for the Central Laboratory

- 3. Regional Information Network is formed (Regional)
 - 3-1. To establish the regulations of laboratory network organizations among the laboratory in the region with the participants' collaboration
 - 3-2. To administrate the network
 - 3-3. To exchange information through the network utilizing internet
 - 3-4. To set up the project web site
 - 3-5. To formulate and conduct publicity strategy

- 4. Regional coordination system is established (Regional)
 - 4-1. To foster institutionalization
 - 4-1-1. To demarcate the roles of participants of the project
 - 4-1-2. To appoint coordinators in each university
 - 4-1-3. To acquire PCM method
 - 4-1-4. To secure the budget for the activities
 - 4-1-5. To establish regulations for the regional coordination system
 - 4-1-6. To establish project steering committee
 - 4-2. To hold regularly project steering committee(SC) meeting
 - 4-2-1. To formulate project plan
 - 4-2-1-1. To clarify the importance of veterinary training in the region
 - 4-2-1-2. To formulate action plan based on the necessities of each country
 - 4-2-1-3. To formulate the action plan for the coordination system
 - 4-2-1-4. To determine experts for the veterinaries training
 - 4-2-1-5. To establish methodologies for the training
 - 4-2-1-6. To formulate time tables for the activities
 - 4-2-1-7. To formulate training programs
 - 4-2-2. To implement project
 - 4-2-2-1. To conduct regional training
 - 4-2-2-2. To research in the whole region
 - 4-2-2-3. To establish information exchange system in the region
 - 4-2-2-4. To exchange the results of the research

Annex1-2

4-2-3. To conduct monitoring and evaluation

4-2-3-1. To formulate the annual plan in each country.

4-2-3-2. To implement monitoring in each country.

4-2-3-3. To share the monitoring results among universities in the region.

5. Research groups are formed in the region. (Regional)

5-1. To research jointly in the region.

5-2. To hold joint seminars in the region.

5-3. To publish research papers.

6. Postgraduate exchange programs are conducted in the regional network.
(Regional)

6-1. To establish regulations for exchange programs

6-2. To determine mutual interested areas among the universities

6-3. To formulate curriculums

6-4. To conduct postgraduate exchange programs

V. Project Sites

Four (4) countries in the region

B. REGIONAL TECHNICAL COOPERATION

I. Overall Goal

Livestock hygiene situation is improved in the region.

II. Project Purpose

Diagnosis for livestock diseases is adequate in the region.

III. Output of the Project

1. The capacity of the Faculty of Veterinary Science of UNLP is strengthened as the human resources development center for livestock hygiene in the southern part of South America.
2. Capacity of diagnosis for livestock diseases is improved in Bolivia.
3. Capacity of diagnosis for livestock diseases is improved in Paraguay.
4. Capacity of diagnosis for livestock diseases is improved in Uruguay.



Annex1-3

IV. Activities of the Project

Refer to the PDM of each country

V. Project Sites

Four (4) countries in the region

Handwritten scribbles or initials, possibly representing the four countries mentioned in the text above.

The project for the capacity development for improvement of livestock hygiene in southern part of south America through regional technical cooperation
: **PDM GENERAL (tentative)**

Target area : 4 countries in the region Target Group : Teaching staffs of the Faculty of Veterinary Science, laboratory veterinarians and veterinaries in the target area Duration: 5 years

Narrative Summary	Indicators		Means of Verifications	Conditions
<p><Overall Goal> Livestock hygiene situation is improved in the region.</p>	<p>1. In the case of occurrence of animal diseases in the region, its infected area is controlled.</p>		<p>SENASA reports and the reports of related organizations.</p>	<p>No serious outbreak of animal disease appears</p>
<p><Project Goal>(Equivalent for "Overall goal" of each country's PDM) Diagnosis for livestock diseases is adequate in the region.</p>	<p>1. Number of detection of animal diseases increase. 2. Procedures of diagnosis of animal diseases in the region are undertaken into practice based on the project-formulated manuals and guidelines. 3. The necessary number of veterinaries, which is based on the project-formulated manuals and guidelines, is arranged in the region..</p>		<p>1. SENASA reports and the reports of related organizations 2. Monitoring reports 3. Monitoring reports, Laboratories' records and SENASA reports</p>	<p>Policy priority or the government for the project is not changed.</p>





ANNEX 2-1
PDM GENERAL

<p><Outputs>(Equivalent for "Project Goal" of each country's PDM)</p> <p>1. The capacity of the Faculty of Veterinary Science of UNLP is strengthened as the human resources development center for livestock hygiene in the southern part of South America.</p> <p>2. Capacity of diagnosis for livestock diseases is improved in Bolivia.</p>	<p>1. The number of veterinaries, who are dispatched from the Argentine Republic, is increased year by year.</p> <p>2. In comparison with the initial period of the project, demand for human resource development is increased by 20 %.</p> <p>1. In comparison with the initial period of the project, the number of the processed samples and diagnosis of target diseases in the University of Gabriel Rene Moreno(UGRM) is increased by 100% at the end of the project.</p> <p>2. The number of inquiry cases from veterinary influenced by the UGRM is increased by 50%.</p> <p>3. In comparison with the initial period of the project, the number of rejected sample is reduced by 50% at the end of the project.</p>	<p>1. Monitoring reports and Minutes of the project steering committee</p> <p>2. Proposals and initial plans from each country, national coordinators' reports</p> <p>Registry of sample</p> <p>Registry of Inquiry</p> <p>Registry of sample in LIDIVET</p>	<p>Policy priority or the government for the project is not changed.</p> <p>Project budget of each institution is maintained.</p> <p>Trained personnel continue working for their institutions.</p>
<p>3. Capacity of diagnosis for livestock diseases is improved in Paraguay.</p>	<p>1. In comparison with the initial period of the project, the number of the processed samples and diagnosis of target diseases is increased by 50% at the end of the project.</p> <p>2. The number of inquiry cases from veterinary is increased by 50%.</p> <p>3. Time of determination of livestock disease is reduced.</p>	<p>Report of the Faculty of Veterinary</p> <p>Data of Ministry of Agriculture and Livestock</p>	
<p>4. Capacity of diagnosis for livestock diseases is improved in Uruguay.</p>	<p>In comparison with the initial period of the project, the number of the processed samples and diagnosis of target diseases is increased by 50% at the end of the project.</p>	<p>Report of the Faculty of Veterinary</p> <p>Data of Ministry of Agriculture</p>	

<p><Activities>(Equivalent for "Outputs" of each country's PDM) Refer to the each PDM</p>	<p><Inputs></p> <p><u>Japan</u> 1. Personnel/ Long- term Experts, Shot- term Experts 2. Equipment 3. Counterpart training 4. Project management cost</p> <p><u>Argentina</u> 1. Personnel/ Counterparts 2. Equipment 3. Land, building and facilities. 4. Running cost for project and etc.</p> <p><u>Bolivia</u> 1. Personnel/ Counterparts 2. Equipment 3. Land, building and facilities. 4. Running cost for project and etc.</p> <p><u>Paraguay</u> 1. Personnel/ Counterparts 2. Equipment 3. Land, building and facilities. 4. Running cost for project and etc.</p> <p><u>Uruguay</u> 1. Personnel / Counterparts 2. Equipment 3. Land, building and facilities. 4. Running cost for project and etc.</p>	<p><Pre-conditions></p> <p>Political decisions of each target country to participate in the regional project are confirmed. The Board of the University accepts the project.</p>
---	--	--

Note:
1. Region: Argentina, Bolivia, Paraguay and Uruguay



The project for the capacity development for improvement of livestock hygiene in southern part of south America through regional technical cooperation

: PDM ARGENTINA (tentative)

Target area : 4 countries in the region Target Group : Argentina (Staffs of FCV -UNLP, / teaching staffs, students and veterinaries in the region) Duration: 5 years

Narrative Summary	Indicators	Means of Verifications	Conditions
<p><Super goal> Livestock hygiene situation is improved in the region.</p>	<p>1. In the case of occurrence of animal diseases in the region, its infected area is controlled.</p>	<p>SENASA reports and the reports of related organizations.</p>	<p>No serious outbreak of animal disease appears</p>
<p><Overall Goal> Diagnosis for livestock diseases is adequate in the region.</p>	<p>1. Number of detection of animal diseases increase. 2. Procedures of diagnosis of animal diseases in the region are undertaken into practice based on the project-formulated manuals and guidelines. 3. The necessary number of veterinaries, which is based on the project-formulated manuals and guidelines, is arranged in the region.</p>	<p>1. SENASA reports and the reports of related organizations 2. Monitoring reports 3. Monitoring reports, Laboratories' records and SENASA reports</p>	<p>Policy priority or the government for the project is not changed.</p>
<p><Project Goal> The capacity of the Faculty of Veterinary Science of UNLP is strengthened as the human resources development center for livestock hygiene in the southern part of South America.</p>	<p>1. The number of veterinaries, who are dispatched from the Argentine Republic, is increased year by year. 2. In comparison with the initial period of the project, demand for human resource development is increased by 20 %.</p>	<p>1. Monitoring reports and Minutes of the project steering committee 2. Proposals and initial plans from each country, national coordinators' reports</p>	<p>Trained personnel continue working for their institutions Project budget of each institution is maintained.</p>

[Handwritten signatures and initials]

<p><Outputs> 1. The capacity of teaching staff in the Faculty of Veterinary Science of UNLP is improved. 2. Conditions are improved for diagnosis and research which are conformed to the International Standard for livestock health in the southern part of South America.</p>	<p>1. In comparison with the initial period of the project, the number of teaching staff, who acquired new techniques and knowledge, is increased at the final moment of the project. (Number should be determined by annual plan.) 2. The number of papers written by teaching staffs is increased by 10%. 3. The graduates of Japanese university / graduate school is increased. 4. In comparison with the initial period of the project, the number of the possible candidate for the dispatched expert is increased by 50 %. 1. The central laboratory which is adequate for International Standard is improved at the end of the project. 2. The necessary human resource is prepared for laboratory management by the end of the project. (Number of person should be determined by the plan.)</p>	<p>1. Lists of participants and completions 2. Faculty's annual report 3. Lists of sending students to Japan and graduates of Japanese Universities 4. Lists of the faculty staffs Lists the third country experts (Argentine MOFA and JICA) 1. Monitoring reports 2. Lists of the faculty staffs</p>	<p>Policy priority or the government for the project is not changed. Project budget of each institution is maintained. Trained personal continue working for their institutions.</p>
<p>3. Regional Information Network is formed</p>	<p>1. The network is wholly developed among participants in the project by the end of the project. After the formulation of network; 2. The information related to the project is collected regularly through the network. 3. The information is regularly provided through the network. (Including renewal of web site and sending news letter) 4. The number of access to the project web site is increase by 10% annually. 1. The decisions are made on planning, implementing and monitoring in the steering committee meeting. 2. The decision making process mentioned above is clear. (transparency, fairness, reasonableness and etc.) (For example: regional training participants regional research participants regional research theme)</p>	<p>1. Monitoring reports 2. Minutes of the project steering committee 3. The number of the News letter via E-mails and questionnaire to the participants 4. The number of the access to the project web site</p>	
<p>4. Regional coordination system is established.</p>		<p>Monitoring reports, minutes of the project steering committee, national coordinators' reports, and experts 'reports</p>	

<p>5. Research groups are formed in the region.</p>	<p>1. 12 research groups are formed by the third year of the project. 2. 20 research groups are formed by the end of the project. 3. 20 research reports are published. 4. 4 joint seminars are held.</p>	<p>1. Monitoring reports and research papers and Faculty 's annual reports 2. Monitoring reports and research papers and Faculty 's annual reports 3. Monitoring reports and research papers and Faculty 's annual reports and thesis 4. Monitoring reports, joint seminars reports and resumes The course curriculum, and agreement among universities</p>
<p>6. Postgraduate exchange programs are conducted in the regional network.</p>	<p>1. 2 postgraduate courses are implemented by the end of the project.</p>	





<p><Activities></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [The capacity of teaching staff in the Faculty of Veterinary Science of UNLP is improved.] <u>(Argentine)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. To take courses of new techniques (e.g. vaccination production, statistics/crisis analysis, GIS and etc) <ol style="list-style-type: none"> 1-1-1. To determine course theme 1-1-2. To determine the subjects and lecturer (e.g. Japanese expert) 1-1-3. To take the courses 1-2. To form working groups for information management 2. [Conditions are improved for diagnosis and researches which are conformed to the International Standard for livestock health in the southern part of South America] <u>(Argentina)</u> <ol style="list-style-type: none"> 2-1. To integrate the functions of the existent laboratories in the University 2-2. To set up the biohazard-oriented Central Laboratory for human resource development <ol style="list-style-type: none"> 2-2-1. To improve the Central Laboratory conformed to the International Standard 2-2-2. To establish laboratory administration system 2-2-3. To train human resource for the Central Laboratory 3. [Regional Information Network is formed] <u>(regional)</u> <ol style="list-style-type: none"> 3-1. To establish the regulations of laboratory network organizations among the laboratory in the region with the participants' collaboration 3-2. To administrate the network 3-3. To exchange information through the network utilizing internet 3-4. To set up the project web site 3-5. To formulate and conduct publicity strategy 4. [Regional coordination system is established] <u>(Regional)</u> <ol style="list-style-type: none"> 4-1. To foster institutionalization <ol style="list-style-type: none"> 4-1-1. To demarcate the roles of participants of the project 4-1-2. To appoint coordinators in each university 4-1-3. To acquire PCM method 4-1-4. To secure the budget for the activities 4-1-5. To establish regulations for the regional coordination system 4-1-6. To establish project steering committee 4-2. To hold regularly project steering committee(SC) meeting <ol style="list-style-type: none"> 4-2-1. To formulate project plan 4-2-1-1. To clarify the importance of veterinary training in the <u>region</u> 	<p><Inputs></p> <p><u>Japan</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Personnel/ Long- term Experts, Shot- term Experts 2. Equipment 3. Counterpart training 4. Project management cost <p><u>Argentina</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Personnel / Counterparts 2. Equipment 3. Land, building and facilities. 4. Running cost for project and etc. 	<p><Pre-conditions></p> <p>Political decisions of each target country to participate in the regional project are confirmed.</p> <p>The Board of the University accepts the project.</p>
---	--	---

<p>4-2-1-2. To formulate action plan based on the necessities of each country</p> <p>4-2-1-3. To formulate the action plan for the coordination system</p> <p>4-2-1-4. To determine experts for the veterinaries training</p> <p>4-2-1-5. To establish methodologies for the training</p> <p>4-2-1-6. To formulate time tables for the activities</p> <p>4-2-1-7. To formulate training programs</p> <p>4-2-2. To implement project</p> <p>4-2-2-1. To conduct regional training</p> <p>4-2-2-2. To research in the whole region</p> <p>4-2-2-3. To establish information exchange system in the region</p> <p>4-2-2-4. To exchange the results of the research</p> <p>4-2-3. To conduct monitoring and evaluation</p> <p>4-2-3-1. To formulate the annual plan in each country.</p> <p>4-2-3-2. To implement monitoring in each country.</p> <p>4-2-3-3. To share the monitoring results among universities in the region.</p> <p>5. [Research groups are formed in the region.] <u>(Regional)</u></p> <p>5-1. To research jointly in the region.</p> <p>5-2. To hold joint seminars in the region.</p> <p>5-3. To publish research papers.</p> <p>6. [Postgraduate exchange programs are conducted in the regional network.] <u>(Regional)</u></p> <p>6-1. To establish regulations for exchange programs</p> <p>6-2. To determine mutual interested areas among the universities</p> <p>6-3. To formulate curriculums</p> <p>6-4. To conduct postgraduate exchange programs</p>	
--	--

Note:

I. Region: Argentina, Bolivia, Paraguay and Uruguay

Elaborado : 2004/10/12

Proyecto de Fortalecimiento de los recursos humanos para la mejora de la sanidad animal a través de la cooperación regional en la parte sur de Sudamérica

: PDM Bolivia (tentativo)

Región destino : Bolivia (Dpto. de Santa Cruz, Ciudad Santa Cruz de la Sierra y sus alrededores)

Grupo meta : Docentes FMVZ-JGRM, veterinarios de LIDIVET, veterinarios de campo

Duración: 5 años

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de verificación	Condiciones externas
<Super meta> Se mejora el status sanitario de la región	1. En caso de producirse enfermedades en la región, se puede controlar el alcance de los daños	Ministerio de Agricultura, OIE	No hay una gran epizootia
<Objetivo Global> Diagnósticos que se hacen en la región son adecuados	<ol style="list-style-type: none"> Se incrementa la detección de casos de enfermedades. Los métodos de diagnóstico de enfermedades que se ejecutan en cada uno de los países, estarán basados en manuales y normas específicas del Proyecto. En la región, se dispondrá de la cantidad necesaria de veterinarios capaces de diagnosticar basados en manuales y normas mencionados. 	<ol style="list-style-type: none"> Ministerio de Agricultura, OIE, Organismos oficiales de sanidad animal Informe de monitoreo Ministerio de Agricultura, OIE, Organismos oficiales de sanidad animal 	No cambia la prioridad del proyecto en la política de estado
<Objetivo del Proyecto> Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades en animales domésticos de Bolivia	<ol style="list-style-type: none"> Al final del proyecto se incrementó en un 100% el número de muestras procesadas y el diagnóstico de enfermedades involucradas en el proyecto comparándola al momento del inicio del proyecto en la FMVZ. Se incrementó en un 10% por año, la cantidad de consultas veterinarias en el área de influencia de la Universidad Al final del proyecto, se redujo en un 50% el número de muestras rechazadas comparando con el inicio del proyecto 	<ol style="list-style-type: none"> Registro de muestras Registro de consultas Registro de datos de muestras de LIDIVET 	El personal capacitado sigue trabajando en la misma institución
<Resultados>			

<p>1. Se mejora la capacidad de los docentes de la Facultad de Medicina Veterinaria y Zootecnia de la Universidad Gabriel René Moreno</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al final de proyecto, se incrementa en un 60% el número de docentes capacitados de los cuales el 50% son jóvenes docentes de iniciación comparado al momento del inicio del Proyecto. Comparado al momento del inicio del Proyecto, se incrementa en un 30%, la cantidad de docentes con capacidad para dictar clases. A través del Proyecto, se establecieron 4 grupos de investigación al final del proyecto Aumenta la cantidad de publicaciones y de los informes de investigación relacionada a las enfermedades en cuestión, en un 10% por año. 	<p>No cambia la prioridad del proyecto en la política de estado</p> <p>Se mantiene el presupuesto de las instituciones</p> <p>El personal capacitado sigue permaneciendo en la misma institución</p>
<p>2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de laboratorios</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al final de proyecto, se incrementa en un 100% el número de veterinarios de laboratorios capacitados comparado al momento del inicio del Proyecto. La cantidad de participantes de los veterinarios de laboratorios en los grupos de investigación, llega al 20 % La cantidad de publicaciones, informe de estudios y de investigación de los veterinarios de los laboratorios, a partir del segundo año será del 10 % por año 	<ol style="list-style-type: none"> Listado de docentes que han recibido y aprobado la capacitación Listado de docentes capacitados que están dictando clase Listado de integrantes de grupo de investigación Informe anual de actividades FMVZ
<p>3. Se mejora la capacidad de los veterinarios clínicos</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al final de proyecto, se incrementa en un 200 el número de veterinarios clínicos capacitados comparado al momento del inicio del Proyecto. Cuatro veterinarios clínicos participan en los grupos de investigación Mejora la precisión de la información proveniente de los veterinarios clínicos cumpliendo normas de procedimiento en un 70%. 	<ol style="list-style-type: none"> Listado de veterinarios de laboratorios que recibieron los cursos de capacitación Listado de integrantes de grupos de investigación Informe anual de actividades de LIDIVET
<p>4. Se adecuan los procedimientos de laboratorios involucrados en el presente proyecto en Bolivia</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al finalizar el Proyecto, se compartirán protocolos de diagnósticos en un 60% entre los laboratorios involucrados 	<ol style="list-style-type: none"> Listado de veterinarios que han recibido cursos de capacitación Listado de integrantes de los grupos de investigación Archivo de historias clínicas
<p>5. Se establece integración de los laboratorios locales a la red informativa regional.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al finalizar el proyecto, se establece la red de laboratorios involucrados en el proyecto Al finalizar el proyecto, un nivel significativo de información es aportados a la red. 	<ol style="list-style-type: none"> Informes de Monitoreo y de expertos Informe de Monitoreo

<p>6. Se establece un sistema de coordinación local en el marco de la coordinación regional</p>	<p>1. En las reuniones periódicas de la comisión ejecutiva, se toman las decisiones sobre planificación, implementación y monitoreo. 2. El proceso mencionado será claro. (transparencia, imparcialidad, rectitud, razonabilidad) (Ejemplos: becarios para capacitaciones regionales, integrantes de las investigaciones conjuntas, las áreas de investigación)</p>	<p>Informe de Monitoreo del proyecto, informes de los coordinadores, acta de reunión de la comisión ejecutiva, e informe de los expertos técnicos de los países</p>
<p>7. Se forman grupos de investigación</p>	<p>1. Hasta el tercer año del proyecto, participan 3 grupos de investigación. 2. Al final del Proyecto, participan grupos de investigación. (La cantidad de grupos será definida por el plan anual) 3. La cantidad de informes de actividades conjuntas de investigación y de investigaciones conjuntas, llegan a (La cantidad de informes será definida por el plan anual) 4. Participan seminarios conjuntos mas de una vez al año.</p>	<p>1. Informe de Monitoreo del proyecto 2. Informes de seminario conjunto 3. Informe de investigación conjunta</p>
<p><Actividades></p> <p>1. [Mejoramiento de la capacidad de los docentes de la facultad de veterinarias de la universidad] (Bolivia)</p> <p>1-1. Implementar cursos de capacitación</p> <p>1-1-1. Establecer la currícula de los cursos relacionados con el diagnóstico microbiológico, parasitológico, clínico y anatomopatológico</p> <p>1-1-2. Establecer currícula para recolección de muestras, envío y análisis de resultados relacionados al diagnóstico clínico, epidemiológico y patológico</p> <p>1-1-3. Implementar los cursos mencionados</p> <p>1-2. Conformar la red de investigación</p> <p>1-2-1. Conformar la red de investigaciones en Bolivia</p> <p>1-2-2. Establecer normas para el establecimiento de los grupos de investigación</p> <p>1-2-3. realizar los trámites para el establecimiento de los grupos de investigación</p> <p>1-2-4. Implementar las actividades de investigación relacionadas a inmunología, epidemiología, microbiología y patología</p> <p>1-3. Implementar pasantías</p>	<p><Aportes></p> <p><u>Japón</u></p> <p>1. Personal / Expertos de largo plazo, Expertos de corto plazo 2. Equipamiento 3. Capacitación de contrapartes 4. Gastos locales</p> <p><u>Argentina</u></p> <p>1. Personal / Expertos 2. Capacitación de contrapartes</p> <p><u>Bolivia</u></p> <p>1. Personal / Contrapartes 2. Equipamientos 3. Tierras, edificios, e instalaciones 4. Gastos operativos</p> <p><u>Uruguay</u></p> <p>1. Personal / Expertos 2. Capacitación de contrapartes</p>	<p><Premisas></p> <p>Decisión política de participación en el proyecto regional</p> <p>Aceptación de la universidad</p>

<p>1-3-1. Establecer la currícula de capacitación y de cursos no programados con objetivos específicos</p> <p>1-3-2. Implementar los cursos mencionados</p> <p>1-4. Implementar posgrados</p> <p>1-4-1 Establecer propuesta de currícula de posgrados</p> <p>1-4-2 Realizar trámites para establecer cursos de posgrado</p> <p>1-4-3. Implementar cursos de posgrado</p> <p>1-4-4. Introducir el régimen de titulaciones compartidas</p> <p>1-4-5. Establecer un sistema de la capacitación de los veterinarios de laboratorios y clínicos</p> <p>1-5.Implementar los cursos de actualización de los docentes</p> <p>1-6.Establecer un sistema de los cursos de actualización de los docentes</p> <p>1-7. Elaborar manuales de procedimiento para las actividades de campo y prestar asesoramiento</p> <p>1-7-1. Organizar talleres</p> <p>1-7-2 Establecer procesos de cada enfermedad</p> <p>1-7-3 Redactar manuales de procedimiento</p> <p>1-7-4 Publicar manuales de procedimientos y modelos de control de enfermedades</p> <p>1-7-5 Establecer la currícula de los cursos de entrenamiento para veterinarios para la utilización de los manuales de campo</p> <p>1-7-6 Implementar los cursos de entrenamientos mencionados</p> <p>2. [Mejoramiento de la capacidad de los veterinarios de laboratorios] (Bolivia)</p> <p>2-1. Participar en los cursos de capacitación</p> <p>2-2. Realizar pasantías</p> <p>2-2-1 Establecer la currícula de capacitación y de cursos no programados con objetivos específicos</p> <p>2-2-2 Implementar los cursos mencionados</p> <p>2-3.Recibir posgrados</p> <p>2-4.Participar en los grupos de investigación</p> <p>3. [Mejoramiento de la capacidad de los veterinarios de campo] (Bolivia)</p> <p>3-1. Participar en los cursos de capacitación</p> <p>3-2. Realizar pasantías</p> <p>3-2-1 Establecer la currícula de capacitación y de cursos no programados con objetivos específicos</p> <p>3-2-2 Implementar los cursos mencionados</p> <p>3-3.Recibir posgrados</p> <p>3-4.Participar en los grupos de investigación</p> <p>3-4-1. Participar en las actividades de investigación relacionado con los estudios epidemiológicos</p>	
---	--

4. [Adecuación de los procedimientos de laboratorio] (Bolivia)
- 4.1. Mejorar equipos de los laboratorios
 - 4-2. Organizar talleres
 - 4-2-1 Analizar los problemas
 - 4-2-2 Analizar, discutir, estandarizar y validar métodos de diagnósticos
 - 4-2-3 Establecer parámetros de evaluación de calidad de las técnicas de diagnóstico
 - 4-3. Fomentar la utilización de las técnicas de diagnóstico
 - 4-3-1 Elaborar manuales de procedimiento
 - 4-3-2 Realizar el entrenamiento en la utilización de las técnicas de diagnóstico
 - 4-3-3 Difundir los manuales
-
5. [Se establece integración de los laboratorios locales a la red informativa regional.] (Regional)
- 5-1 Establecer normas de organización y creación de la red de laboratorios regionales en colaboración de las personas vinculadas de la región
 - 5-2 Participar en la red
 - 5-3 Realizar intercambio de informaciones a través de la red establecida con la utilización de internet
6. [Se establece un sistema de coordinación local en el marco de la coordinación regional] (Regional)
- 6-1. Impulsar su organización
 - 6-1-1 Fomentar la identificación de los organismos de coordinación con las personas vinculadas de la región
 - 6-1-2. Establecer un coordinador de cada universidad
 - 6-1-3. Establecer las normas para el sistema de coordinación regional
 - 6-1-4 Procurar el presupuesto para las actividades
 - 6-2. Participar en las reuniones periódicas de la comisión ejecutiva
 - 6-2-1. Establecer el plan
 - 6-2-1-1. Clarificar la importancia del entrenamiento de los veterinarios bolivianos en la región
 - 6-2-1-2. Establecer el plan de actividades e acuerdo a las prioridades de Bolivia
 - 6-2-1-3. Establecer metodología para el entrenamiento de los veterinarios en Bolivia
 - 6-2-1-4 Participar en la confección del cronograma del Plan de actividades de los países de la región

<p>6-2-2. Implementar 6-2-2-1. Implementar los trámites de los entrenamientos a nivel regional 6-2-2-2. Implementar los trámites de las investigaciones a nivel regional 6-2-2-3. Implementar intercambio de los resultados de las investigaciones de Bolivia en la región 6-2-3. Realizar el monitoreo y la evaluación 6-2-3-1. Implementar el monitoreo en Bolivia 6-2-3-2. Compartir el resultado del monitoreo con las universidades de la región</p> <p>7. [Establecimiento de grupos de investigación] (Regional) 8-1. Participar en las actividades de investigación conjunta de la región 8-2. Participar en los seminarios regionales</p>	
--	--



Observación:
1. Región: Argentina, Bolivia, Paraguay y Uruguay

Elaborado: 2004/10/12

Proyecto de Fortalecimiento de los recursos humanos para la mejora de la sanidad animal a través de la cooperación regional en la parte sur de Sudamérica
: PDM PARAGUAY (tentativo)

Área objeto del proyecto: La región sur de Sudamérica (Argentina, Bolivia, Paraguay y Uruguay)
Grupo Meta: Docentes FCV- UNA, Veterinarios de SENACSA, Veterinarios del campo
Región Destino: Paraguay

Período de Ejecución: 5 años

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de verificación	Condiciones externas
<Super meta>			
Se mejora el status sanitario de la región	1. En caso de producirse enfermedades en la región, se puede controlar el alcance de los daños	Ministerio de Agricultura y Ganadería, OIE	No hay una gran epizootia
<Objetivo Global> Diagnósticos que se hacen en la región son adecuados	<ol style="list-style-type: none"> Se incrementa la detección de casos de enfermedades. Los métodos de diagnóstico de enfermedades que se ejecutan en cada uno de los países, estarán basados en manuales y normas específicas del Proyecto. En la región, se dispondrá de la cantidad necesaria de veterinarios capaces de diagnosticar basados en manuales y normas mencionados. 	Ministerio de Agricultura y Ganadería, OIE, SENACSA	No cambia la prioridad del proyecto en la política de estado
<Objetivo del Proyecto> Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades en animales domésticos de Paraguay	<ol style="list-style-type: none"> Al final del proyecto se incrementó en un 50% el número de muestras procesadas y el diagnóstico de enfermedades involucradas en el proyecto comparándola al momento del inicio del proyecto. Se incrementó en un 50%, la cantidad de consultas por veterinario en Paraguay Se redujo el tiempo de determinación de las enfermedades en Paraguay 	Informe de FCV-UNA, Ministerio de Agricultura y Ganadería,	El personal capacitado sigue trabajando en la misma institución

<p><Resultados> 1. Se mejora la capacidad de los docentes de la Facultad de Ciencias Veterinarias de la Universidad Nacional de Asunción</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al final de proyecto, se incrementa en un 60% el número de docentes capacitados de los cuales el 50% son jóvenes docentes comparado al momento del inicio del Proyecto. Comparado al momento del inicio del Proyecto, se incrementa en un 30%, la cantidad de docentes con capacidad para dictar clases. Aumenta la cantidad de publicaciones en un 80% y los informes de investigación relacionado a las enfermedades en cuestión, en un 100%. 	<ol style="list-style-type: none"> Listado de docentes que han realizado capacitación Listado de docentes capacitados que están dictando clase Memoria anual de facultad 	<p>No cambia la prioridad del proyecto en la política de estado Se mantiene el presupuesto de las instituciones El personal capacitado sigue permaneciendo en la misma institución</p>
<p>2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de SENACSA.</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al final de proyecto, se incrementa en un 30% el número de veterinarios de SENACSA capacitados comparado al momento del inicio del Proyecto. La cantidad de publicaciones de los veterinarios de SENACSA, llega a (La cantidad de publicaciones será definida por el plan anual del proyecto) La cantidad de información obtenida a través de la red de laboratorios, llega a (La cantidad de información será definida por el plan anual del proyecto) 	<ol style="list-style-type: none"> Listado de veterinarios de SENACSA que realizaron los cursos de capacitación Memoria anual de SENACSA Informe de la coordinación regional 	
<p>3. Se mejora la capacidad de los veterinarios de campo en ejercicio privado</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al final de proyecto, se incrementa en un 30% el número de veterinarios de campo capacitados comparado al momento del inicio del Proyecto. La cantidad de participantes de los veterinarios de campo en los grupos de investigación, llega a (La cantidad de participantes será definida por el plan anual del proyecto) La cantidad de notificación desde el campo sobre las enfermedades llega a (La cantidad de notificación será definida por el plan anual del proyecto) Mejora la precisión de la información proveniente de los veterinarios de campo 	<ol style="list-style-type: none"> Informe de FCV - UNA Informe de FCV - UNA Informe de SENACSA Encuesta 	
<p>4. Se adecuan los procedimientos de laboratorios de Paraguay</p>	<ol style="list-style-type: none"> Al finalizar el Proyecto, se compartirán protocolos de diagnósticos en un 60% entre los laboratorios involucrados. 	<ol style="list-style-type: none"> Informe de FCV - UNA y SENACSA 	

<p>5. Se establece integración de los laboratorios locales a la red regional.</p>	<p>1. Al finalizar el proyecto, se establece la red de todos los laboratorios 2. Al finalizar el proyecto, un nivel significativo de información es aportados a la red.</p>	<p>1. Informe de la coordinación regional 2. Informe de la coordinación regional</p>
<p>6. Se establece un sistema de coordinación local en el marco de la coordinación regional</p>	<p>1. En las reuniones periódicas de la comisión ejecutiva, se toman las decisiones sobre planificación, implementación y monitoreo. 2. El proceso mencionado será claro. (transparencia, imparcialidad, rectitud, razonabilidad) (Ejemplos: becarios para capacitaciones regionales, integrantes de las investigaciones conjuntas, las áreas de investigación)</p>	<p>Informe de Monitoreo del proyecto, informes de los coordinadores, acta de reunión de la comisión ejecutiva, e informe de los expertos técnicos de los países</p>
<p>7. Se forman grupos de investigación regional</p>	<p>1. Hasta el tercer año del proyecto, se establecen 3 grupos de investigación. 2. Al final del Proyecto, se establecen 6 grupos de investigación. 3. La cantidad de informes de actividades conjuntas de investigación y de investigaciones conjuntas, llega a 9 4. Se organizan 4 seminarios conjuntos</p>	<p>La memoria de FCV - UNA</p>
<p><Actividades></p> <p>1. [Mejoramiento de la capacidad de los docentes de la facultad de veterinarias de la universidad] (Paraguay) 1-1. Se implementan cursos institucionales para el sistema de entrenamiento de los veterinarios 1-1-1. Establecer la currícula de los cursos relacionados con el diagnóstico microbiológico, parasitológico, clínico y anatomopatológico 1-1-2. Implementar los cursos mencionados 1-2. Conformar la red de investigación 1-2-1. Conformar grupos de investigación en Paraguay 1-3. Implementar pasantías 1-3-1. Establecer la currícula de capacitación y de cursos no programados con objetivos específicos 1-3-2. Implementar los cursos mencionados 1-4. Implementar posgrados 1-4-1. Establecer propuesta de currícula de posgrados 1-4-2. Realizar trámites para establecer cursos de posgrado</p>	<p><Aportes></p> <p>[Japón] 1. Personal / Expertos de largo plazo, Expertos de corto plazo 2. Equipamientos 3. Capacitación de contrapartes 4. Gastos locales</p> <p>[Argentina] 1. Personal / Expertos 2. Capacitación de contrapartes</p> <p>[Paraguay] 1. Personal / Contrapartes 2. Equipamientos 3. Tierras, edificios, e instalaciones 4. Gastos operativos</p> <p>[Uruguay]</p>	<p><Premisas></p> <p>Decisión política de participación en el proyecto regional Aceptación de la universidad</p>

1. Personal / Expertos
2. Capacitación de contrapartes

<p>1-4-3. Implementar cursos de posgrado 1-4-4. Introducir el régimen de titulaciones compartidas</p> <p>2. [Mejoramiento de la capacidad de los veterinarios de SENACSA] (Paraguay)</p> <p>2-1. Implementar cursos de capacitación 2-1-1. Establecer la currícula de los cursos relacionados con el diagnóstico microbiológico, parasitológico, clínico y anatomopatológico 2-1-2. Implementar los cursos mencionados</p> <p>2-2. Realizar pasantías 2-2-1. Establecer la currícula de capacitación y de cursos no programados con objetivos específicos 2-2-2. Implementar los cursos mencionados</p> <p>2-3. Realizar posgrados 2-3-1. Definir currícula de cursos de posgrado de los veterinarios 2-3-2. Realizar trámites para establecer cursos de especialización y maestrías 2-3-3. Implementar cursos de especialización y maestrías</p> <p>3. [Mejoramiento de la capacidad de los veterinarios de campo en ejercicio privado] (Paraguay)</p> <p>3-1. Implementar cursos de capacitación 3-1-1. Establecer currícula para recolección de muestras, envío y análisis de resultados relacionados al diagnóstico clínico, epidemiológico y patológico</p> <p>3-1-2. Implementar los cursos mencionados</p> <p>3-2. Realizar pasantías 3-2-1. Establecer la currícula de capacitación y de cursos no programados con objetivos específicos 3-2-2. Implementar los cursos mencionados</p> <p>3-3. Realizar posgrados 3-3-1. Definir currícula de cursos de posgrado de los veterinarios de campo 3-3-2. Realizar trámites para establecer cursos de posgrado para los veterinarios de campo 3-3-3. Implementar cursos de posgrado</p> <p>3-4. Participación de los veterinarios de campo en los grupos de investigación 3-4-1. Participan en las actividades de investigación relacionado con los estudios epidemiológicos</p> <p>3-5. Elaborar manuales de procedimiento para las actividades de campo y prestar asesoramiento 3-5-1. Organizar talleres 3-5-2. Establecer proceso de diagnóstico de cada enfermedad 3-5-3. Redactar manuales de procedimiento</p>
--

[Handwritten signature]
20/1/2011

<p>3-5-4 Publicar manuales de procedimientos y modelos de control de enfermedades</p> <p>3-5-5 Establecer la currícula de los cursos de entrenamiento para veterinarios para la utilización de los manuales de campo</p> <p>3-5-6 Implementar los cursos de entrenamientos mencionados</p> <p>4. [Adecuación de los procedimientos de laboratorio] <u>(Paraguay)</u></p> <p>4-1. Organizar talleres</p> <p>4-1-1 Analizar los problemas</p> <p>4-1-2 Analizar, discutir, estandarizar y validar métodos de diagnósticos</p> <p>4-1-3 Establecer parámetros de evaluación de calidad de las técnicas de diagnóstico</p> <p>4-2. Fomentar la utilización de las técnicas de diagnóstico</p> <p>4-2-1 Elaborar manuales de procedimiento</p> <p>4-2-2 Realizar el entrenamiento en la utilización de las técnicas de diagnóstico</p> <p>4-2-3 Difundir los manuales</p> <p>5. Se establece integración de los laboratorios locales a la red regional. <u>(Regional)</u></p> <p>5-1. Establecer normas de organización y creación de la red de laboratorios nacionales en colaboración con las personas vinculadas de la región</p> <p>5-2. Participar en la red</p> <p>5-3. Realizar intercambio de informaciones a través de la red establecida con la utilización de Internet</p> <p>6. [Se establece un sistema de coordinación local en el marco de la coordinación regional] <u>(Regional)</u></p> <p>6-1. Impulsar su organización</p> <p>6-1-1 Fomentar la identificación de los organismos de coordinación con las personas vinculadas de la región</p> <p>6-1-2. Establecer un coordinador de cada universidad</p> <p>6-1-3. Establecer las normas para el sistema de coordinación regional</p> <p>6-1-4 Procurar el presupuesto para las actividades</p> <p>6.2. Participar en las reuniones periódicas del Comité de Coordinación (Comisión ejecutiva)</p> <p>6-2. 1. Establecer el plan</p> <p>6-2-1-1 Clarificar la importancia del entrenamiento de los veterinarios de la región</p> <p>6-2-1-2. Establecer el plan de actividades de acuerdo a las prioridades de Paraguay</p>	
--	--

- 6-2-1-3 Establecer metodología para el entrenamiento de los veterinarios de los países de la región
- 6-2-1-4 Confeccionar el cronograma del Plan de actividades de los países de la región
- 6.2. 2. Implementar
 - 6-2-2-1. Participar en la implementación del entrenamiento a nivel regional
 - 6-2-2-2. Participar en la implementación de las investigaciones a nivel regional
 - 6-2-2-3. Implementar el intercambio de los resultados de la investigación de Paraguay en la región
 - 6-2-2-4. Establecer un sistema de intercambio de información de Paraguay en la región
- 6.2.3. Realizar el monitoreo y la evaluación
 - 6-2-3-1. Implementar el monitoreo en Paraguay
 - 6-2-3-2. Compartir el resultado del monitoreo con las universidades de la región
- 7. [Establecimiento de grupos de investigación] (Regional)
- 8-1. Participar en las actividades de investigación conjunta de la región
- 8-2. Participar en los seminarios regionales

Observación:

1. Región: Argentina, Bolivia, Paraguay y Uruguay



Elaborado 2004/10/12

Proyecto de Fortalecimiento de los recursos humanos para la mejora de la sanidad animal a través de la cooperación regional en la parte sur de Sudamérica
: PDM URUGUAY (tentativo)

Área objeto del proyecto: La región sur de Sudamérica (Argentina, Bolivia, Paraguay y Uruguay)
Grupo Meta: Veterinarios del Uruguay
Región Destino: Uruguay

Período de Ejecución: 5 años

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Supuestos Importantes
<SUPER META> Se mejora es estatus sanitario en la región.	En caso de producirse enfermedades en la región, se puede controlar el alcance de los daños	Datos del Ministerio de Agricultura, OIE	No hay una gran epizootia
<OBJETIVO GLOBAL> Diagnósticos que se hacen en la región son adecuados.	<ol style="list-style-type: none"> 1. Se incrementa la detección de casos de enfermedades. 2. Los métodos de diagnóstico de enfermedades que se ejecutan en cada uno de los países, estarán basados en manuales y normas específicas del Proyecto. 3. En la región, se dispondrá de la cantidad necesaria de veterinarios capaces de diagnosticar basados en manuales y normas mencionados. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Datos del Ministerio de Agricultura, OIE 2. Datos del Servicio Nacional de Sanidad 3. Informe de monitoreo 3. Informe de monitoreo, Datos del Servicio Nacional de Sanidad 	No cambia la prioridad del proyecto en la política de Estado
<OBJETIVO ESPECIFICO DEL PROYECTO> Se mejora la capacidad de diagnóstico de los veterinarios del Uruguay.	Al final de proyecto, se incrementó en un 50% el número de muestras procesadas y el diagnóstico de enfermedades involucradas en el proyecto	Informe de la Facultad de Veterinaria Datos del Ministerio de Agricultura	El personal capacitado sigue trabajando en la misma institución.

<p><RESULTADOS> 1. Se mejora la capacidad de los docentes de la facultad de veterinaria de la Universidad de la República.</p>	<p>1. Al final del proyecto se incrementa en un 60% el número de docentes de la facultad capacitados de los cuales el 20% con jóvenes docentes de iniciación comparado al momento del inicio del Proyecto. 2. Aumenta en un 30% el número de docentes capacitadores</p>	<p>1. Listado de docentes que realizaron capacitación 2. Listado de docentes capacitados que están dictando capacitación</p>	<p>No cambia la prioridad del proyecto en la política de Estado. Se mantiene el presupuesto de las instituciones. El personal capacitado sigue trabajando en la misma institución.</p>
<p>2. Se capacitan veterinarios de laboratorio del país.</p>	<p>1. Se incrementa en un 40% el número de veterinarios de laboratorios (incluidos dentro del proyecto) capacitados 2. Se incrementa en un 40% la participación de los veterinarios de laboratorio en actividades científicas y en publicaciones relacionadas a las actividades del Proyecto.</p>	<p>1. Listado de veterinarios que realizaron cursos de capacitación. 2. Memoria de la facultad e informe de monitoreo</p>	
<p>3. Se capacitan veterinarios de campo del país</p>	<p>1. Al final del proyecto se capacitó al 30% de los veterinarios de campo incluidos dentro del proyecto. 2. Se incrementa un 30% la participación de los veterinarios de campo en las actividades académicas de la Facultad de Veterinaria.</p>	<p>1. Listado de veterinario que realizaron capacitación 2. Memoria de facultad</p>	
<p>4. Se adecuan los procedimientos de laboratorios de cada país</p>	<p>1. Al final del proyecto los laboratorios integrados por la cooperación comparten el 60% de los protocolos de diagnóstico</p>	<p>1. Informe de monitoreo</p>	
<p>5. Se implementan cursos institucionalizados para el sistema de entrenamiento de los veterinarios</p>	<p>1. Al final del proyecto, se estableció los principios de implementación del sistema de entrenamiento 2. Se realizaron 3 cursos de actualización por año, para veterinarios de campo y de laboratorio, para 30 participantes cada uno.</p>	<p>1. Informe de monitoreo 2. Listado de veterinarios que realizaron curso.</p>	
<p>6. Se crea una red regional de laboratorios</p>	<p>1. Para el año 2009 el total de laboratorios incluidos en el proyecto, está funcionando en red</p>	<p>1. Informe de monitoreo y de expertos</p>	

<p>7. Se establece un sistema de coordinación regional</p> <p>1. [Mejoramiento de la capacidad de los docentes de la facultad de veterinaria de la universidad] 1-1. Implementar cursos de capacitación. 1-1-1. Brindar cursos de entrenamiento en diagnóstico microbiológico parasitológico, toxicológico, anatomopatológico, patología clínica y clínico. 1.1.2 Establecer los contenidos de los cursos de capacitación 1-2. Conformar redes de investigación. 1-2-1. Establecer nexos entre Instituciones académicas, de investigación y afines.</p> <p>1-3. Realizar pasantías. 1-3-1. Institucionalizadas y no programadas 1-4. Realizar actividades de posgrados. 1-4-1. Participación de expertos en el dictado de cursos de posgrados vigentes</p> <p>2. [Capacitación de los veterinarios de laboratorio] 2-1. Realizar cursos de capacitación. 2-1-1. Cursos de entrenamiento en diagnóstico microbiológico, parasitológico, anatomopatológico con énfasis en técnicas de avanzada. 2-2. Realizar pasantías. 2-2-1. Cursos institucionalizados y otros no programados con objetivos determinados 2-3. Fomentar la realización de posgrados.</p>	<p>1. En las reuniones periódicas de la comisión ejecutiva, se toman las decisiones sobre planificación, implementación y monitoreo. 2. El proceso mencionado será claro. (transparencia, imparcialidad, rectitud, razonabilidad) (Ejemplos: becairos para capacitaciones regionales, integrantes de las investigaciones conjuntas, las áreas de investigación)</p> <p>8. Para el año 2007 se establecen 3 grupos de investigación en conjunto</p>	<p>Informe de Monitoreo del proyecto, informes de los coordinadores, acta de reunión de la comisión ejecutiva, e informe de los expertos técnicos de los países</p> <p>Informe de monitoreo e informe de investigación conjunta</p>	
<p><ACTIVIDADES></p> <p>1. [Mejoramiento de la capacidad de los docentes de la facultad de veterinaria de la universidad] 1-1. Implementar cursos de capacitación. 1-1-1. Brindar cursos de entrenamiento en diagnóstico microbiológico parasitológico, toxicológico, anatomopatológico, patología clínica y clínico. 1.1.2 Establecer los contenidos de los cursos de capacitación 1-2. Conformar redes de investigación. 1-2-1. Establecer nexos entre Instituciones académicas, de investigación y afines.</p> <p>1-3. Realizar pasantías. 1-3-1. Institucionalizadas y no programadas 1-4. Realizar actividades de posgrados. 1-4-1. Participación de expertos en el dictado de cursos de posgrados vigentes</p> <p>2. [Capacitación de los veterinarios de laboratorio] 2-1. Realizar cursos de capacitación. 2-1-1. Cursos de entrenamiento en diagnóstico microbiológico, parasitológico, anatomopatológico con énfasis en técnicas de avanzada. 2-2. Realizar pasantías. 2-2-1. Cursos institucionalizados y otros no programados con objetivos determinados 2-3. Fomentar la realización de posgrados.</p>	<p><INSUMOS></p> <p><u>Japón</u> 1. Personal / Expertos de largo plazo, Expertos de corto plazo 2. Equipamientos 3. Capacitación de contrapartes 4. Gastos locales</p> <p><u>Argentina</u> 1. Personal / Expertos 2. Capacitación de contrapartes</p> <p><u>Uruguay</u> 1. Personal / Contrapartes 2. Equipamientos 3. Tierras, edificios, e instalaciones 4. Gastos operativos</p>		<p><CONDICIONES PREVIAS></p> <p>Decisión política de participación. Aceptación de universidad.</p>

<p>2-3-1. Especializaciones, maestrías y doctorados</p> <p>2-4. Conformar grupos de investigación interinstitucionales</p> <p>2-4-1. Participación en proyectos de investigación en aspectos inmunológicos, microbiológicos, patológicos, etiológicos y otros</p> <p>2-5. Conformar redes de investigación.</p> <p>2-5-1. Establecer nexos entre grupos de investigación de las instituciones de los países intervinientes</p> <p>2-5-2. Establecer nexos con grupos de investigación nacionales vinculados al sector.</p> <p>3. [Capacitación de los veterinarios de campo]</p> <p>3-1. Realizar cursos de capacitación.</p> <p>3-1-1. Cursos de diagnóstico clínico, epizootológicos, patológicos, toma y remisión de muestras e interpretación de resultados laboratoriales</p> <p>3-2. Realizar pasantías.</p> <p>3-2-1. Realizar cursos institucionalizados y otros no programados con objetivos determinados</p> <p>3.3 Realizar cursos de actualización especializados</p> <p>3-31. Participación de expertos en el dictado de cursos de educación continua y extensión.</p> <p>3-4. Participar en grupos de investigación.</p> <p>3-41. Participación en proyectos de investigación en aspectos epidemiológicos</p> <p>3-5. Elaboración de manuales de procedimiento de actividades de campo</p> <p>3-5-2 Establecer procedimientos para el diagnóstico de las enfermedades contempladas en el Proyecto.</p> <p>3-5-3 Redactar manuales de procedimiento.</p> <p>3-5-4 Publicar manuales de procedimientos y modelos de control de enfermedades.</p> <p>3-5-5 Entrenar personal de campo en la utilización de manuales</p> <p>3-6 . Organizar talleres de trabajo, de discusión, planificación de las actividades, etc.</p> <p>4. [Adecuación de los procedimientos de laboratorio]</p> <p>4-1. Organizar talleres de trabajo. Analizar, discutir, evaluar, estandarizar y validar las metodologías y técnicas de diagnóstico</p> <p>4-2 Adecuar los procedimientos de laboratorio a las normas de calidad ISO específicas.</p> <p>4-3 Implementar las técnicas seleccionadas.</p>
--

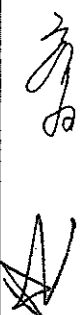
- 4.3.1 Entrenar el personal profesional y asistente en la utilización de las técnicas de diagnóstico seleccionadas
- 4.3.2 Establecer parámetros para evaluación de calidad de las técnicas de diagnóstico.
- 4-4 Elaborar manuales de procedimientos de las técnicas de laboratorio en forma conjunta con los laboratorios de la región.
- 4-5 Publicar y difundir manuales de procedimiento.

5. [Red regional de laboratorios]

- 5-1 Participar en red de laboratorios de facultades de veterinaria
- 5-2 Difundir información a través de un portal de internet.

6. [Sistema de coordinación regional]

- 6-1. Organización
 - 6-1-1. Identificar organismo de coordinación.
 - 6-1-2. Establecer un comité para el desarrollo del proyecto.
 - 6-1-3. Establecer un coordinador a tal fin en las universidades.
 - 6-1-4. Realizar reuniones periódicas de coordinación.
 - 6-1-5. Realizar presupuestos de actividades.
- 6-2. Planificación
 - 6-2-1. Definir prioridades para la capacitación de los veterinarios.
 - 6-2-2. Planificar actividades de acuerdo a las prioridades.
 - 6-2-3. Programar actividades del organismo de coordinación.
 - 6-2-4. Identificar expertos para la capacitación de veterinarios.
 - 6-2-5. Establecer metodologías para la capacitación de veterinarios.
 - 6-2-6. Establecer un cronograma de actividades.
 - 6-2-7. Establecer un programa regional de capacitación de veterinarios.
- 6-3. Ejecución
 - 6-3-1. Realizar capacitación en conjunto en la región.
 - 6-3-2. Realizar investigaciones en conjunto en la región.
 - 6-3-3. Intercambiar resultados de los estudios.
 - 6-3-4. Establecer un sistema de intercambio de información.
- 6-4. Monitoreo y seguimiento
 - 6-4-1. Realizar evaluación.



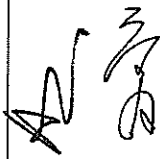
6-4-2. Intercambiar informaciones entre universidades.

7. [Grupos de investigación]

7-1. Ejecutar trabajos de investigación conjunta

7-2. Organizar seminarios

7-3. Publicar resultados de investigación

Handwritten signatures in black ink, appearing to be two distinct signatures.

TENTATIVE PLAN OF OPERATION (PO)

ANNEX 3

I. Plans of Operations for Argentina

Item of Activities	1st Year	2nd Year	3rd Year	4th Year	5th Year
1 The Capacity of teaching staff in the faculty of Veterinary Science of the University is improved					
1-1 To take courses of new techniques and knowledge of the fields					
1-2 To form working groups for Information Management					
2. Conditions are improved for diagnosis and research which are conformed to the International Standard for the Livestock Health in Southern Part of South America					
2-1 To integrate the functions of the existent laboratories in the University					
2-2 To set up the biohazard-oriented Central Laboratory for human resource development					
3. Regional Information Network is formed					
3-1 To establish the regulations of Laboratory Network Organizations among the Laboratories in the Region with participants' collaboration					
3-2 To administrate the Networks					
3-3 To Exchange Information through the Networks utilizing Internet					
3-4 To set up the Project Web site					
3-5 To formulate and conduct Project Publicity Strategy					
4. Regional Coordination System is established					
4-1 To foster Institutionalization					
4-2 To hold regularly Project Steering Committee Meeting					
5. Research Groups are formed in the Region					
5-1 To Research jointly in the Region					
5-2 To hold Joint Seminars in the Region					
5-3 To publish Research Papers					
6. Post-Graduate Exchange Programs are conducted in the Regional Network					
6-1 To establish Regulations for Exchange Programs					
6-2 To determine Mutual Interested Areas among the Universities					
6-3 To formulate Curriculums					
6-4 To conduct Postgraduate Exchange Programs					

II. Plans of Operations for Bolivia, Paraguay and Uruguay

Item of Activities	Bolivia	Paraguay	Uruguay	1st Year	2nd Year	3rd Year	4th Year	5th Year
1. Capacity of teaching staff in the faculty of Veterinary Science of the University is improved								
1-1(1) To conduct Training/Educational courses for University Teaching Staff, Laboratory Veterinaries and Clinic Veterinaries	+	+						
1-1(2) To conduct Training courses			+					
1-2 To formulate Research Network groups	+	+	+					
1-3 To conduct On the Job Training (OJT)	+	+	+					
1-4 To conduct Postgraduate Education	+	+	+					
2. Capacity of Laboratory Veterinaries is improved / Laboratory Veterinaries are trained								
2-1(1) To participate Educational Training Courses	+	+						
2-1(2) To conduct Training Courses			+					
2-2 To conduct On the Job Training (OJT)	+	+	+					
2-3(1) To participate Postgraduate Education Course	+	+						
2-3(2) To forward conducts of Postgraduate Education			+					
2-4(1) To involve Research Groups	+							
2-4(2) To cultivate Research Groups			+					
2-5(1) To form Research Network Groups			+					
2-5(2) To promote establishments of Postgraduate Education for Laboratory Veterinaries	+							
3. Capacity of Field (Clinic) Veterinaries is improved / Field (Clinic) Veterinaries are trained								
3-1(1) To participate Educational Training Courses	+	+						
3-1(2) To conduct Training Courses			+					
3-2 To conduct On the Job Trainings (OJT)	+	+	+					
3-3(1) To participate Postgraduate Education Course	+	+						
3-3(2) To conduct Advanced Training Courses			+					
3-4 To involve Research Groups	+	+	+					
3-5 To promote establishments of Post-Graduate Education for Field (Clinic) Veterinaries	+							
3-6(1) To make out Proceeding Manuals for the field activities and guide with it		+	+					
3-6(2) To hold meetings for discussing Action Plans and related issues			+					
4. Laboratory Proceedings becomes appropriate / Laboratory Proceedings are improved								
4-1 To improve Laboratory	+							
4-2 To hold Workshops for Improvement of Diagnosis Manners	+	+	+					
4-3(1) To Apply Diagnosis Techniques			+					
4-3(2) To Promote and Disseminate Diagnosis Techniques/Knowledge	+	+						
4-4 To Make out Standard Manuals			+					
5. Regional Information Network is formed								
5-1 To establish the regulations of Laboratory Network Organizations among the Laboratories in the Region with participants' collaboration	+	+						
5-2 To Involve Network Groups	+	+	+					
5-3 To Exchange Information through the Networks utilizing Internet	+	+	+					
6. Regional Coordination System is established								
6-1 To foster Institutionalization	+	+	+					
6-2 To participate regularly Project Steering Committee Meeting	+	+	+					
7. Research Groups are formed in the Region								
7-1 To Involve Regional Research Groups	+	+	+					
7-2(1) To Participate Joint Seminars in the Region	+	+						
7-2(2) To hold Joint Seminars in the Region			+					

ANNEX 4 TENTATIVE LISTS OF JAPANESE EXPERTS

1. Long-term Expert and their duties

(1) Project Coordinator / Project Management

To coordinate administrative and managerial matters of the Project activities, and monitor the project progress

To give technical advise and support in the field of project management.

To assist the Chief Advisor for the smooth implementation of the Project.

2. Short-term Experts

(1) Chief Advisor

To supervise experts as a responsible person and provide necessary recommendations and advice to the Project Director, the Project Manager, the National Coordinators and related authorities on any matters pertaining to the Project.

(2) Others

Short-term experts will be dispatched as and when necessary according to the requirements established within this framework.

Tentative fields for short-term experts as follows;

a. PCM training

b. For Technical Advise

- 1) Clinical Pathology
- 2) Pathology
- 3) Avian Pathology
- 4) Virology
- 5) Bacteriology
- 6) Parasitology
- 7) Experimental Animals
- 8) Reproduction
- 9) Internal Medicine
- 10) Surgery
- 11) Physiology
- 12) Pharmacology
- 13) Animal Breeding

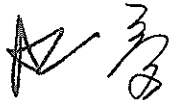
Note: The fields, number and Terms of assignment of experts will be decided in consideration of the progress of the Project through mutual consultations including the Joint Coordinating Committee in each Japanese fiscal year.



Annex 4

ANNEX 5 LIST OF ARGENTINE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Project Director: President of University of La Plata
2. Project Manager: Dean of Faculty of Veterinary Science, University of La Plata
3. Counterpart Personnel
 - 1) General Coordinator
 - 2) Country Coordinator (Bolivia, Paraguay and Uruguay)Suitably qualified personnel are assigned throughout the Project period in each technical field
4. Administrative Personnel
 - 1) Administrative Staff
 - 2) Secretaries
 - 3) Drivers
 - 4) Other support staff mutually agreed upon as necessary
5. Other personnel mutually agreed upon as necessary

Handwritten signature and initials in black ink, appearing to be 'A' followed by a stylized '3' and '8'.

ANNEX 6 TENTATIVE MEMBER LIST OF STEERING COMMITTEE (COMITE EJECUTIVO DEL PROYECTO)

Name	Position	Institute/Organization	Country	Position in Steering Committee
1 NOSETTO, Edgardo	Dean	Faculty of Veterinary Science (FCV), National University of La Plata (UNLP)	Argentine	Chairperson
2 PONS, Eduardo	Institutional Affairs Secretariat - Director	FCV of UNLP	Argentine	General Coordinator
3 PETRUCCELLI, Miguel	Professor	FCV of UNLP	Argentine	Coordinator for Paraguay
4 PECORARO, Marcelo	Professor	FCV of UNLP	Argentine	Coordinator for Uruguay
5 BRUNIARD, Rogelio	Institutional Affairs Secretariat - Consultant	FCV of UNLP	Argentine	Coordinator for Bolivia
6 AGUILERA, Isabel	Vice Dean	FCV, Autonomous University of Gabriel Rene Moreno	Bolivia	National Coordinator
7 ACUÑA, Luis	Vice Dean	Faculty of Veterinary, National University of Asuncion	Paraguay	National Coordinator
8 PERDOMO, Eugenio	Professor	FCV, University of the Republic	Uruguay	National Coordinator
9 Not Identified	Chief Advisor	Japanese Expert	Japan	Member
10 Not Identified	Project Coordinator / Project Management	Japanese Expert	Japan	Member

ANNEX 7 TENTATIVE LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENTS (1st Year)

7-1 TENTATIVE LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENTS (Argentina)

- 7-1-1 Clean Bench (biohazard type)
- 7-1-2 Autocleave
- 7-1-3 Co2 Incubator
- 7-1-4 Microscope x2
- 7-1-5 Ultra Low Freezer
- 7-1-6 Real Time PCR
- 7-1-7 Micropipets multichannel x5
- 7-1-8 Biohazard Unit

7-2 TENTATIVE LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENTS (Bolivia)

- 7-2-1 Immunofluorescence Microscope
- 7-2-2 Microscope with camera and projector
- 7-2-3 Microtome
- 7-2-4 Vibratome
- 7-2-5 Tissue processor
- 7-2-6 Freezers(-20° C) x2
- 7-2-7 Refrigerator(4° C) x2
- 7-2-8 Computer
- 7-2-9 Digital camera,
- 7-2-10 Digital video recorder
- 7-2-11 Multimedia projector

- 7-2-12 ELISA reader
- 7-2-13 ELISA microplate washer
- 7-2-14 Micropipets multichannel x5
- 7-2-15 Incubator(37° C)
- 7-2-16 ELISA microplate mixer

- 7-2-17 Safety Cabinet Class II
- 7-2-18 CO2 Incubator
- 7-2-19 Autoclave
- 7-2-20 Sterilization oven
- 7-2-21 Digital Balance
- 7-2-22 Freezer(-70° C)
- 7-2-23 Hen eggs Incubator

7-3 TENTATIVE LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENTS (Paraguay)

- 7-3-1 ELISA reader
- 7-3-2 ELISA microplate washer
- 7-3-3 Micropipets multichannel x5
- 7-3-4 Incubator(37° C)
- 7-3-5 Freezer(-20° C)
- 7-3-6 Refrigerator
- 7-3-7 ELISA microplate mixer

- 7-3-8 Safety Cabinet Class II
- 7-3-9 CO2 Incubator
- 7-3-10 Autoclave
- 7-3-11 Sterilization oven
- 7-3-12 Digital Balance
- 7-3-13 Freezer(-70° C)
- 7-3-14 Freezer(-20° C)
- 7-3-15 Hen eggs Incubator
- 7-3-16 Micropipets multichannel x2

7-4 TENTATIVE LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENTS (Uruguay)

- 7-4-1 Safety Cabinet Class II
- 7-4-2 CO2 Incubator
- 7-4-3 Autoclave
- 7-4-4 Sterilization oven
- 7-4-5 Digital Balance
- 7-4-6 Freezer(-70° C)
- 7-4-7 Freezer(-20° C)
- 7-4-8 Hen eggs Incubator
- 7-4-9 Micropipets multichannel x2

Note:

Machinery, equipment and the other materials necessary for implementation of the Project will be provided by the Government of Japan in consideration of the progress of the Project and budgets.



ANNEX 8 TENTATIVE LIST OF BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land, buildings and facilities necessary for the implementation of the Project
2. Rooms and space necessary for installation and storage of the Equipment
3. Office space and necessary facilities for the Japanese experts and related members
4. Other facilities mutually agreed upon as necessary

A handwritten signature in black ink, consisting of stylized, cursive characters.

ANNEX 9: LIST OF TARGETED LIVESTOCK DISEASES FOR EACH COUNTRY

BOLIVIA	
	<Rabies>
1	Newcastle disease Macro and Micro Pathology *
	Neosporosis Infectious Bovine Rhinitis
2	Bovine Leukosis Avian Leukosis Avian Salmonellosis
3	Intoxicacion Heavy Metals Avian Influenza Porcine respiratory syndrome
4	Cisticercosis Mycotoxycosis Clinical Diagnosis *
5	Paratuberculosis Equine Infectious Anemia

PARAGUAY	
	<Infectious Bursal disease> Bovine Tricomoniasis Aujeszky's disease Porcine Salmonellosis
1	Avian Mycoplasmosis Avian Salmonellosis
2	Parasitic Disease Bovine, Equine, Porcine, Avian Clinical Pathology *
3	

URUGUAY	
1	<Avian and Equine Influenza>
2	<Fasciola Hepatica>
3	Equine Herpes Virus Infection
4	Antigen production for Bovine Leukosis Virus
5	Ovine Perinatal Disease
6	Equine Viral Arthritis
7	Toxoplasmosis
8	Campilobacteriosis (Bovine and Ovine)
9	Mycoplasmosis
10	Ovine Brucellosis
11	Equine Rodococcosis

* : Name of Targeted Area
<>: 1st Priority Diseases for each country

ANNEX 10. LIST OF 1ST PRIORITY LIVESTOCK DISEASES FOR THE 1ST YEAR OF THE PROJECT AND THE WORKING COUNTRIES

Disease	Diagnostic technique	Site of Trainer	Trainee
Rabies (proposed by Bolivia)	1. Pathological exam. 2. Staining 3. Virus isolation 4. Antibody Titer 5. IFA 6 .PCR	1. Uruguay 2. Argentine	1. Bolivia 2. Paraguay
Infectious Bursa Disease (Proposed by Paraguay)	1. Antibody Titer,ELISA 2. Pathological exam. 3. IFA 4. Epidemiological analy.	1. Argentine	1. Paraguay 2. Bolivia 3. Uruguay
Avian Influenza (Proposed by Uruguay)	1. Virus Isolation 2. Antibody Titer 3. IFA, FA 4. PCR 5. Pathological exam.	1. Argentine 2. Uruguay	1. Uruguay 2. Bolivia 3. Paraguay
Fasiola Hepatica	1. Fecal exam. 2. Skin Test	1. Argentine	1. Bolivia 2. Paraguay 3. Uruguay

Two handwritten signatures in black ink. The signature on the left is more stylized and appears to be 'H. J.', while the one on the right is more cursive and appears to be 'M. J.'.

「広域協力による南米南部家畜衛生改善のための人材育成」プロジェクト PDM General プロジェクト全体版

対象地域：対象域内 4ヶ国 ターゲットグループ：対象域内 大学獣医学部教官、国家研究所獣医師、対象地域現場獣医師 期間：5年間

プロジェクトの要約	指標	入手段	外部条件
<p><上位目標> 域内の家畜衛生状況が向上する</p>	<p>1. 域内で家畜疾病が発生した場合にその被害範囲が抑えられる</p>	<p>1. SENASA 及び各国相当機関の家畜疾病統計</p>	<p>大きな伝染病がない</p>
<p><プロジェクト目標> (個別 PDM の上位目標に相当) 域内で行なわれる疾病診断が適切になる</p>	<p>1. 家畜疾病の検出件数が増加する 2. 域内各国で実施されている疾病診断方法がプロジェクト策定のマニュアル、規定に基づいて実施される 3. マニュアルや規定に基づいて診断可能な獣医師が域内に必要数確保される</p>	<p>1. SENASA 及び各国相当機関の年報 (家畜疾病分野) 2. モニタリング報告書 3. モニタリング報告書、民間ラボの登録簿と SENASA の報告書</p>	<p>国家政策におけるプロジェクトの位置付けが変更されない</p>
<p><成果> (各国 PDM の目標に相当) 1. ラ・プラタ大学獣医学部において、南米南部地域の家畜衛生に関する人材育成センターとしての能力が向上する 2. ポリビアにおける家畜疾病診断能力が改善する</p>	<p>1. アルゼンチンから各国に派遣される獣医師の数が、年々増加する 2. 人材育成の需要がプロジェクト開始時と比較して 20%増加する</p>	<p>1. プロジェクトモニタリング報告書 プロジェクト調整委員会議事録 2. 各国からの要望調査、各国からの計画書、ナショナルコーディネーター報告書 1. 標本台帳 2. 問い合わせ台帳 3. LIDIVET のサンプル受付台帳</p>	<p>・国家政策におけるプロジェクト位置付けに変更がない。 ・関係機関の予算が継続的に確保されている ・訓練された職員が定着している。</p>
<p>3. パラグアイにおける家畜疾病診断能力が改善する</p>	<p>1. プロジェクト終了時、ガブリエル・レネ・モレノ大学のプロジェクト開始時点から 100%増加する。 2. ガブリエル・レネ・モレノ大学に関する獣医師一人あたりの問い合わせ件数が 50%増加する 3. ポリビア国内のプロジェクトが対象とする家畜疾病のサンプルで検査する基準を満たさない不良数が一年目に比べて 50%少なくなる</p>	<p>・獣医学部報告書 ・農牧省データ</p>	
<p>4. ウルグアイにおける家畜疾病診断能力が改善する</p>	<p>1. プロジェクト終了時、プロジェクト関連疾病の診断及び処理された標本数がプロジェクト開始時点から 50%増加する。 2. パラグアイ国内の獣医師一人あたりの問い合わせ件数が 50%増加する 3. パラグアイ国内の家畜疾病を特定する時間が短縮される</p>	<p>・獣医学部報告書 ・農業省データ</p>	

<p><活動> (個別 PDM の成果に相当) (各国の PDM を参照)</p>	<p><投入></p> <p><アルゼンチン></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート 2. 資機材 3. 土地・建物 4. プロジェクト運営経費 他 <p><ポリビア></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート 2. 資機材 3. 土地・建物 4. プロジェクト運営経費 他 <p><パラグアイ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート 2. 資機材 3. 土地・建物 4. プロジェクト運営経費 他 <p><ウルグアイ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート 2. 資機材 3. 土地・建物 4. プロジェクト運営経費 他 <p><日本></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門家 長期専門家 (業務調整/計画運営) 短期専門家 (チーフアドバイザー他) 2. 資機材 3. カウンターパート研修 4. プロジェクト運営経費 	<p><前提条件></p> <p>広域案件への参加意向が確認される</p> <p>大学からの参加確認が取れる</p>
---	---	--

補足説明
1. 域内：アルゼンチン、ポリビア、パラグアイ、ウルグアイ

「広域協力による南米南部家畜衛生改善のための人材育成」プロジェクト PDM ARGENTINE アルゼンチン版

対象地域：プロジェクト対象4ヶ国 ターゲットグループ：(直接)ラ・プラタ大学獣医学部教官、(間接)対象地域大学獣医学部教官、獣医師、学生 期間：5年間

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p><スーパースゴール> 域内の家畜衛生状況が向上する</p>	<p>1. 域内で家畜疾病が発生した場合にその被害範囲が抑えられる</p>	<p>1. SENASA 及び各国相当機関の家畜疾病統計</p>	<p>大きな伝染病がない</p>
<p><上位目標> 域内で行なわれる疾病診断が適切になる</p>	<p>1. 家畜疾病の検出件数が増加する 2. 域内各国で実施されている疾病診断方法がプロジェクト策定のマニュアル、規定に基づいて実施される 3. マニュアルや規定に基づいて診断可能な獣医師が域内に必要数確保される</p>	<p>1. SENASA 及び各国相当機関の年報 (家畜疾病分野) 2. モニタリング報告書 3. モニタリング報告書、民間ラボの登録簿と SENASA の報告書</p>	<p>国家政策におけるプロジェクトの位置付けが変更されない</p>
<p><プロジェクト目標> (案1)ラ・プラタ大学獣医学部において、南米南部地域の家畜衛生に関する人材育成センターとしての能力が向上する (案2)南米南部地域における家畜衛生の人材育成センターとしてラ・プラタ大学獣医学部の能力が強化される</p>	<p>1. アルゼンチンから各国に派遣される獣医師の数が、年々増加する 2. 人材育成の需要がプロジェクト開始時と比較して20%増加する</p>	<p>1. プロジェクトモニタリング報告書 プロジェクト調整委員会議事録 2. 各国からの要望調査、各国からの計画書、ナショナルコーディネーター報告書</p>	<p>訓練された職員が定着している 関係機関の予算が継続的に確保されている</p>
<p><成果> 1. ラ・プラタ大学獣医学部教官の能力が向上する 2. 南米南部地域の家畜衛生のために、国際基準に適合した診断・研究が実施できる環境が整備される 3. 広域情報ネットワークが構築される</p>	<p>1. プロジェクト終了時において、新しい技術を習得した教官数がプロジェクト開始時点から増加する (数値は毎年の計画に基づいて決定される) 2. 大学教官による研究報告、論文の数が10%増加する 3. 日本の大学院卒業生が増える 4. 各国に派遣可能な講師の数が50%増加する (現在20名) 1. プロジェクト終了時において、国際基準を考慮した中央ラボラトリーが整備される 2. プロジェクト終了時において、ラボラトリー運営のために必要な人材が確保される (計画に基づいて人数が決定される) 1. プロジェクト終了時点までに、関係する全ての機関でネットワークが適切に機能する 2. ネットワーク形成後： 3. ネットワークを通じて定期的にプロジェクト対象国の情報を集積する 4. ネットワークを通じて定期的に情報を発信する (ウェブサイトの更新、ニュースレターの発行) 5. プロジェクトウェブサイトのアクセス数が設置後、毎年10%ずつ増加する</p>	<p>1. 研修受講者名簿、合格者名簿 2. 学部長報告書 (学部紀要) 3. 研究報告、論文 4. 卒業生・修了者名簿 5. 学部教官名簿 6. 第三国専門資格者リスト 1. プロジェクトモニタリング報告書 2. 学部教官・技官リスト</p>	<p>国家政策におけるプロジェクト位置付けに変更がない。 関係機関の予算が継続的に確保されている</p>

<p>4. 広域調整システムが確立される</p> <p>5. 広域研究グループが構成される</p> <p>6. 広域ネットワーク内で互換性のある大学卒業後教育の制度が実施される</p>	<p>1. 定期的に関催されるプロジェクト運営委員会において、計画、実施、モニタリングの各段階で意思決定がなされる 2. 決定プロセスは明確にされる（透明性、公正性、納得性等） (例：広域研修参加者、広域研究参加者、広域研究テーマ等の決定)</p> <p>1. プロジェクト3年目までに12の研究グループが設置される 2. プロジェクト終了時までに20の研究グループが設置される 3. 作成した共同研究活動報告、共同研究報告の数が20となる。 4. 開催した共同セミナー数が4となる</p> <p>1. プロジェクト終了時までに2の卒業教育コースが実施される</p>	<p>1と2</p> <p>プロジェクトモニタリング報告書 プロジェクト運営委員会議事録 コーディネーター報告書 専門家報告書</p> <p>1. プロジェクトモニタリング報告書、研究報告書、学部紀要 2. プロジェクトモニタリング報告書、研究報告書、学部紀要 3. プロジェクトモニタリング報告書、研究報告書、論文集 4. プロジェクトモニタリング報告書、共同セミナー報告書、セミナー要旨集</p> <p>1. 卒業教育コース実施要綱 大学間協定書</p>
--	---	---

<p><活動></p> <p>1. [大学獣医学部教官の能力の向上] (アルゼンチン国内) 1-1. 新技術の研修コース (疾病診断、ワクチン生産、統計・危機分析、地理情報システム等) を受講する 1-1-1. コースのテーマを決定する 1-1-2. 講師 (日本から派遣される専門家等) の分野を決定する 1-1-3. コースを受講する 1-2. 情報管理・発信のためのワーキンググループを導入する</p> <p>2. [南米南部地域の家畜衛生のために、国際基準に適合した診断・研究が実施できる環境が整備される] (アルゼンチン国内) 2-1. 既存のラボラトリーの機能を統合する 2-2. 人材育成のため生物安全を考慮した中央ラボラトリーを整備する 2-2-1. 国際基準に合う中央ラボラトリーを整備する 2-2-2. ラボラトリーの管理運営制度を策定する 2-2-3. ラボラトリーの人材を養成する</p> <p>3. [広域内情報ネットワークの構築] (広域) 3-1 域内関係者と協力してラボネットワークの構造、運営規定を策定す</p>	<p><投入></p> <p>日本側</p> <p>1. 専門家 長期専門家 (業務調整/計画運営) 短期専門家 (チーフアドバイザー他) 2. 資機材 3. カウンターパート研修 4. プロジェクト運営経費</p> <p>アルゼンチン側</p> <p>1. カウンターパート 2. 資機材 3. 土地・建物 4. プロジェクト運営経費 他</p>	<p><前提条件></p> <p>広域案件への参加意向が確認される 大学からの参加確認が取れる</p>
---	--	---

<p>る</p> <p>3-2 ネットワークを運営する</p> <p>3-3 インターネットなどを活用し、構築されたネットワークを通じて情報交換を行う</p> <p>3-4 プロジェクトのウェブサイトを設置する</p> <p>3-5 プロジェクトの広報戦略を策定し、実施する</p> <p>4. [広域内調整システムの確立] (広域)</p> <p>4-1. 組織化を促進する</p> <p>4-1-1 域内関係者と調整機関の明確化を図る</p> <p>4-1-2 各大学においてコーディネーターの設置を図る</p> <p>4-1-3 プロジェクトマネジメント手法を習得する</p> <p>4-1-4 活動のための予算化を図る</p> <p>4-1-5 域内調整システムの規約を策定する</p> <p>4-1-6 プロジェクト運営委員会 (SC) を設立する</p> <p>4-2 プロジェクト運営委員会 (SC) を定期的に開催する</p> <p>4-2-1 プロジェクトの計画を策定する</p> <p>4-2-1-1 域内国獣医の訓練の位置付けを明確にする</p> <p>4-2-1-2 域内国の必要性に基づく活動計画を策定する</p> <p>4-2-1-3 調整組織の活動の計画を策定する</p> <p>4-2-1-4 獣医の訓練のための専門家を特定する</p> <p>4-2-1-5 域内国獣医の訓練のための手法確立する</p> <p>4-2-1-6 域内国活動実施のタイムテーブルを作成する</p> <p>4-2-1-7 域内獣医訓練プログラムを策定する</p> <p>4-2-2 プロジェクトを実施する</p> <p>4-2-2-1 域内全体での訓練を実施する</p> <p>4-2-2-2 域内全体での研究を実施する</p> <p>4-2-2-3 域内における情報交換システムを確立する</p> <p>4-2-2-4 域内で研究成果の交換を行う</p> <p>4-2-3 プロジェクトの評価・モニタリングを実施する</p> <p>4-2-3-1 域内各国での年間計画を策定する</p> <p>4-2-3-2 域内各国でモニタリングを実施する</p> <p>4-2-3-3 モニタリング結果を域内大学間で共有する</p> <p>5. [研究グループが構成される] (広域)</p> <p>5-1 域内共同研究活動を実施する</p> <p>5-2 域内セミナー開催する</p> <p>5-3 研究報告書を発行する</p> <p>6. [広域ネットワーク内で互換性のある大学卒業後教育システムが確立される] (広域)</p> <p>6-1 共通の単位規定を制定する</p> <p>6-2 共通の関心のある領域を決定する</p> <p>6-3 カリキュラムを策定する</p> <p>6-4 卒業教育コースを実施する</p>	<p>る</p>
--	----------

6. ポリビア版PDM (和訳)

「広域協力による南米南部家畜衛生改善のための人材育成」プロジェクト PDM BOLIVIA (tentativo) ポリビア版

対象地域：ポリビア国サンタクルス県及びその周辺地域 ターゲットグループ：ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部教官、LIDIVET 獣医師、対象地域クリニック診断獣医師。 期間：5年間

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p><スーパーゴール></p> <p>域内の家畜衛生状況が向上される。</p> <p><上位目標></p> <p>域内で行なわれる疾病診断が適切になる。</p>	<p>1. 域内で家畜疾病が発生した場合にその被害範囲が抑えられる</p> <p>1. 家畜疾病の検出件数が増加する</p> <p>2. 域内各県で実施されている疾病診断方法がプロジェクト策定のマニュアル、規定に基づいて実施される</p> <p>3. マニュアルや規定に基づいて診断可能な獣医師が域内に必要数確保される</p>	<p>農牧省、OIE</p> <p>農牧省、OIE 行政機関レポート</p>	<p>大きな伝染病がない</p> <p>国家政策におけるプロジェクトの位置付けが変更されない</p>
<p><プロジェクト目標></p> <p>ポリビアにおける家畜疾病診断能力が改善する。</p>	<p>1. プロジェクト終了時、ガブリエル・レネ・モレノ大学のプロジェクト関連疾病の診断及び処理された標本数がプロジェクト開始時点から100%増加する。</p> <p>2. ガブリエル・レネ・モレノ大学に関する獣医師一人あたりの問い合わせ件数が毎年10%づつ増加する</p> <p>3. ポリビア国内のプロジェクトが対象とする家畜疾病のサンプルで検査する基準を満たさない不良数が一年目に比べて50%少なくなる</p>	<p>1. 標本台帳</p> <p>2. 問い合わせ台帳</p> <p>3. LIDIVETのサンプル受付台帳</p>	<p>訓練された職員が定着する</p>
<p><成果></p> <p>1. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部教官の能力が向上する</p>	<p>1. プロジェクト終了時において、若手教官（全教官の50%を占める）を含め訓練を受けた教官数がプロジェクト開始時点から60%増加する。</p> <p>2. 国内の獣医師に対して講義できる教官数がプロジェクト開始時点から30%増加する。</p> <p>3. プロジェクト5年目までに、プロジェクトを通じて設置された研究グループの数が4つになる。</p> <p>4. 大学教官による、対象疾病に関する研究報告、論文の数が毎年10%づつ増加する。</p>	<p>1. 大学の研修受講者及び合格者名簿</p> <p>2. 大学教官名簿</p> <p>3. 研究グループ参加名簿</p> <p>4. 大学年間活動報告書、大学紀要</p>	<p>国家政策におけるプロジェクト位置付けに変わらない。</p> <p>関係機関の予算が継続的に確保される</p>
<p>2. 研究所 (LIDIVET) の獣医師の能力が向上する</p>	<p>1. 訓練された研究所の獣医師の数がプロジェクト開始時点から100%増加する。</p> <p>2. 研究所の獣医師の研究グループ参加数がプロジェクト開始時から20%増加する。</p> <p>3. プロジェクト開始2年目から研究所獣医師による調査報告、研究報告、論文数が毎年10%づつ増える。</p>	<p>1. ラボラトリー-研修受講者及び合格者名簿</p> <p>2. 研究グループリスト</p> <p>3. ラボラトリー-研究報告集、年間活動報告書</p>	<p>訓練された職員が定着している。</p>

<p>3. クリニック診断の獣医師の能力が向上する</p> <p>4. プロジェクトに関連しているポリビア国のラボラトリーの作業手順の適正化を図られる</p> <p>5. 広域情報ネットワークが構築される</p>	<p>1. プロジェクト終了時に、訓練されたクリニック診断の獣医師の数が200名となる。</p> <p>2. クリニック診断の獣医師の研究グループ参加数がプロジェクト開始時から4名増加する。</p> <p>3. 作成されたマニュアルに準じて、サンプルをラボラトリーに持ち込む数が全体の70%以上になる。</p> <p>1. プロジェクト終了時に、関係するラボラトリーの60%以上で、診断プロトコルが共用される。</p> <p>1. プロジェクト終了時点で、関連した機関間のネットワークが形成される。</p> <p>2. プロジェクト終了時に、ネットワークに提供される情報が相当なレベルとなる</p>	<p>1. クリニック診断獣医師研修受講者及び合格者名簿</p> <p>2. 研究グループリスト</p> <p>3. クリニックからのサンプル受付台帳</p> <p>1. プロジェクトモニタリング報告書、専門家報告書</p> <p>1. プロジェクトモニタリング報告書</p> <p>2. 合同調整委員会議事録</p>
<p>6. 広域調整システムが機能する。</p>	<p>1. 定期的に開催されるプロジェクト運営委員会において、計画、実施、モニタリングの各段階で意思決定がなされる</p> <p>2. 決定プロセスは明確にされる（透明性、公正性、納得性等）</p> <p>(例：広域研修参加者、広域研究参加者、広域研究テーマ等の決定)</p>	<p>1. プロジェクトモニタリング報告書</p> <p>ナショナルコーディネーター報告書</p> <p>プロジェクト運営委員会議事録</p> <p>各国技術専門家報告書</p>
<p>7. 広域研究グループが構成される。</p>	<p>1. プロジェクト3年目までに3つの広域共同研究グループに参加する</p> <p>2. プロジェクト終了時点で○○（ア国の数に合わせる）の共同研究グループに参加する</p> <p>3. 共同研究活動数が○○（ア国の数に合わせる）となる。</p> <p>4. 広域共同セミナーに最低年一回以上参加する。</p>	<p>1. プロジェクトモニタリング報告書</p> <p>2. 広域共同セミナー報告書</p> <p>3. 共同研究報告書</p>

<p><活動></p> <p>1. [大学獣医学部教官の能力の向上] (ポリビア国内)</p> <p>1-1. 大学教官、研究所獣医、クリニック診断獣医に対する研修/教育コースを実施する</p> <p>1-1-1. 微生物学、原虫病学、臨床、病理学的診断に関するコースの研修カリキュラムを策定する</p> <p>1-1-2. 臨床、流行病、病理学的診断及び標本採取・送付・処理結果分析等に係る教育カリキュラムを策定する</p> <p>1-1-3. 上記研修/教育コースを実施する</p> <p>1-2. 研究ネットワークを構成する</p> <p>1-2-1. ポリビア国内の研究ネットワーク構築する</p> <p>1-2-2. 研究グループ設置のための規定を策定する</p> <p>1-2-3. 研究グループ設置のための手続を行う</p> <p>1-2-4. 免疫学、疫学、微生物学、病理学等に関する研究活動を実施する</p> <p>1-3. OJT型研修を実施する</p> <p>1-3-1. 研修またはプログラム別研修のカリキュラムを策定する</p> <p>1-3-2. 上記研修を実施する</p>	<p><投入> (以下、検討必要)</p> <p>Japan [Personal] Expertos de largo plazo. Expertos de corto plazo. [Equipamiento] Indefinido. [Infraestructura] ラボラトリー整備</p> <p>Argentina [Personal] Envío de expertos. Capacitación del personal (curso). [Equipamiento] Indefinido. [Infraestructura] Indefinido.</p>	<p><前提条件></p> <p>広域案件への参加意向確認が取れる</p> <p>大学からの参加確認が取れる</p>
---	--	--

<p>1-4. 卒業教育（大学院を含む）を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-4-1 卒業教育コースのカリキュラム案を策定する 1-4-2 卒業教育コース設置のための手続きを行う 1-4-3. 卒業教育コースを実施する 1-4-4 共通学位認定制を導入する 1-4-5 研究所獣医師及びクリニック診断獣医師の卒業教育（再教育システム）の制度化を図る <p>1-5. 大学教員のリフレッシュ（ブラッシュアップ）研修コースの実施</p> <p>1-6 大学獣医学部教官のリフレッシュ（ブラッシュアップ）研修コースの制度化を図る</p> <p>1-7 現場における活動のプロセスマニュアルを作成し、指導する</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-7-1. 業務ワークショップ開催する 1-7-2 家畜疾病別プロセス設定する 1-7-3 プロセスマニュアル作成する 1-7-4 プロセスマニュアル及び疾病管理モデルマニュアルの発行する 1-7-5 フィールドマニュアルの扱いに関する獣医の訓練コースのカリキュラムを策定する 1-7-6 上記を訓練コースを実施する <p>2. [研究所の獣医に対する能力向上]（ボリビア国内）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-1. 教育コースに参加する 2-2. OJT 型教育を実施する <ul style="list-style-type: none"> 2-2-1 教育またはプログラム別教育のカリキュラムを策定する 2-2-2 上記教育（講習会など）を実施する 2-3. 卒業教育に参加する 2-4. 研究グループに参加する <p>3. [現場の獣医に対する訓練能力向上]（ボリビア国内）</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-1. 教育コースに参加する 3-2. OJT 型教育を実施する <ul style="list-style-type: none"> 3-2-1 研修またはプログラム別研修の内容を策定する 3-2-2 上記研修を実施する 3-3. 卒業教育に参加する 3-4. 研究グループへ参加する <ul style="list-style-type: none"> 3-4-1. 疫学調査等に係る研究活動へ参加する <p>4. [ラボトリーの作業手順の適正化]（ボリビア国内）</p> <ul style="list-style-type: none"> 4-1. ラボトリーの施設改善を行う 4-2. 業務改善ワークショップを開催する <ul style="list-style-type: none"> 4-2-1 問題分析を行う 4-2-2 診断技術の検討、協議、評価及び標準化を行う 4-2-3 診断技術の品質評価パラメーターの設定 4-3. 診断技術の定着を図る <ul style="list-style-type: none"> 4-3-1 手続きマニュアルの作成を行う 4-3-2 診断技術の活用に係る訓練を行う 4-3-3 マニュアルの普及を行う 	<p><u>Bolivia</u> [Persona!] ナショナルコーディネーター カウンタートパート（大学） [Infraestructura] プロジェクトボリビア事務所</p>
--	--

5. [広域内情報ネットワークの構築] (広域)
- 5-1 域内国関係者と協力して域内獣医学部ラボネットワークの構築、運営規定を策定する
 - 5-2 ネットワークに参加する
 - 5-2 インターネットなどを活用し、構築されたネットワークを通じた情報交換を行う
6. [広域内調整システムの確立] (広域)
- 6-1. 組織化を促進する
 - 6-1-1 域内関係者と各国の関係機関の明確化を図る
 - 6-1-2 各国のコアリーダーを設ける
 - 6-1-3 域内運営委員会の規約を策定する
 - 6-1-4 活動のための予算化を図る
 - 6-2. プロジェクト運営委員会 (SC) に定期的に参加する
 - 6-2-1. プロジェクトの計画を策定する
 - 6-2-1-1 担当国の獣医の訓練の位置付けを明確にする
 - 6-2-1-2 担当国の優先付けに基づく活動計画を策定する
 - 6-2-1-3 担当国の獣医の訓練のための手法確立
 - 6-2-1-4 プロジェクトの全体計画の策定に参画する
 - 6-2-2. プロジェクトを実施する
 - 6-2-2-1. 域内訓練の手続きを行う
 - 6-2-2-2. 域内研究の手続きを行う
 - 6-2-2-3. 域内で自国の研究成果の交換を行う
 - 6-2-3. プロジェクトの評価・モニタリングを実施する
 - 6-2-3-1. 自国でモニタリングを実施する
 - 6-2-3-2. モニタリング結果を域内大大学間で共有する
7. [研究グループが構成される] (広域)
- 7-1. 域内共同研究活動に参加する
 - 7-2. 域内セミナーに参加する

- 補足説明
- 1. 域内：アルゼンチン、ポリピア、パラグアイ、ウルグアイ
 - 2. 研修（対大大学教授）、教育（対ラボトレーナー、クリニック診断獣医師）

第Ⅲ部

南米地域における家畜疾病防除計画(仮称)

第一次事前評価調査報告書

目 次

1. 事前評価調査団の派遣	239
1-1 調査団派遣の経緯と目的	239
1-1-1 調査団派遣の経緯	239
1-1-2 調査団派遣の目的	240
1-2 調査団の構成	240
1-3 調査日程	240
1-4 主要面談者	241
2. 調査の要約	243
2-1 調査結果の概要	243
2-2 ミニッツの内容	243
2-2-1 プロジェクトの枠組み	243
2-2-2 ワークショップの結果	244
2-2-3 プロジェクトの妥当性	244
2-2-4 基本計画（暫定マスタープラン）の内容	245
2-2-5 調査団からの提言事項	245
3. 家畜疾病分野における取り組みと広域協力	246
3-1 家畜疾病防除における広域協力の意義	246
3-2 広域疾病防除の観点からみた、協力課題の選定	246
4. 広域協力の実施方針	249
4-1 PPJA との関連	250
4-2 現行プロジェクトとの整理	250
4-3 広域協力のスキーム	250
付属資料	
1. 協議議事録（ミニッツ英文、西文）	253
2. PCM ワークショップ実施報告書	288

1. 事前評価調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

1-1-1 調査団派遣の経緯

(南米における畜産業と疾病の概況)

南米諸国において、畜産業は基幹産業として重要な位置を占めている。特に、メルコスール（南米南部共同市場）による経済統合が進む中、域内の家畜生体や畜産物の流通が一層盛んになり、各国の経済に与える影響は大きくなっている。

このように、経済統合による域内の経済活動が活発になる一方で、口蹄疫などの重要家畜疾病の発生により、畜産物の流通が制限されるなどの事態が生じており、各国は大きな経済的損失を生じている。

しかしながら、家畜疾病の診断、伝染病予防等の国ごとのレベルの差は大きく、また、各国が自国の国境監視に終始してきたことから、国境を越えた家畜疾病防除のための技術と制度の確立といった共同対策が急務となっている。

(基礎調査とアルゼンチンにおける協力の成果)

このような状況を踏まえ、JICAでは、昨年、南米のアルゼンチン、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイを対象に家畜衛生状況や家畜疾病防除に対するニーズを把握するとともに、各国間の連携の可能性を調査し、家畜疾病防除に係る広域技術協力実施の検討に必要な基礎的情報の収集を行った。

その結果、関係各国では、家畜疾病に係る取り組みが優先課題となっており、広域的な取り組みに積極的であること、また、その協力の実施を念頭に置いた場合、わが国が、1989年以来協力してきたアルゼンチンのラ・プラタ大学獣医学部は、広域協力の拠点として、十分な技術力と経験及び意思を有していることが明らかになった。

この点は、本年2月に実施されたアフターケア協力の終了時評価調査でも、先に述べたラ・プラタ大学の実施能力と意向が改めて確認されている。

(協力の対象)

これまでの調査で、今後の協力の方向性は、家畜の重要疾病に対する、各国の共同防除をスーパーゴールとすることが妥当と考える。

しかしながら、各国の技術レベルやおかれている状況を考慮したところ、現段階で、まず、診断技術の向上を主とした獣医診断技術分野の取り組みを相互に活性化させ、各国獣医学部間の連携を深めていくことが重要であるとの印象を得た。

更に、協力の対象としては、メルコスールの経済圏を基本とした上で、地勢的に類似性が高く、これまでの実績もあるアルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイの4カ国が、広域協力を開始する対象として妥当であるとの結論に至った。

(広域協力の要請)

その後、ラ・プラタ大学獣医学部は、周辺国のニーズを独自に調査の上、広域協力「南米地域に

における家畜疾病防除計画」を正式に要請してきた。

要請の内容は、防除技術と体制の確立を上位目標としつつ、具体的な活動としては大学を主体とした関係機関の人材育成となっており、先の調査団の見解とほぼ軌を一にしている。

1-1-2 調査団派遣の目的

今般、この要請を受け、関係者との協議及び現地調査を通じて、プロジェクトの妥当性を確認し、事前評価を実施することを目的として、事前評価調査団を派遣した。

1-2 調査団の構成

担当	氏名	所属
総括	星野 和久	JICA 農業開発協力部畜産園芸課 課長代理
広域疾病防除	多田 融右	JICA 国際協力専門員
獣医学教育	小野 憲一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医臨床病理学講座 教授
協力計画	高田 宏仁	JICA 農業開発協力部畜産園芸課
計画分析	長町 昭	財団法人国際開発高等教育機構

1-3 調査日程

南米地域における家畜疾病防除計画 事前評価調査

			星野団長、小野、多田、高田	宿泊地	長町団員
月日	時間	日程		日程	
1 12月8日 月	12:00 10:20	(発) 成田→ (着) ニューヨーク→	機中泊	同左	
2 12月9日 火	11:04 14:00 16:00 17:00 18:00	(着) ブエノスアイレス JICA 事務所打合せ 日本大使館表敬 外務省表敬 調査方針打ち合わせ	ブエノスアイレス	同左	
3 12月10日 水	9:00	ラ・プラタ大学、獣医学部表敬、協議 現地調査 (疾病調査現場、診断ラボ) 2 国間ワークショップ	ブエノスアイレス	同左	
4 12月11日 木	9:00	2 国間ワークショップ	ブエノスアイレス	同左	
5 12月12日 金	10:00 13:00 15:00 16:30	農産品品質衛生管理局 (SENASA) 表敬 国立農牧技術院 (INTA) 表敬 外務省と PPJA にかかる打合せ 農畜産振興事業団 (ALIC) 表敬	ブエノスアイレス	2 国間ワークショップ結果整理	
6 12月13日 土		団内打合せ	ブエノスアイレス	団内打合せ	
7 12月14日 日	12:30 13:15	(発) ブエノスアイレス (AR1204) → (着) モンテビデオ	モンテビデオ	資料整理	
8 12月15日 月	09:30 10:30 14:00	在ウルグアイ日本大使館表敬 外務省表敬 共和国大学獣医学部表敬、協議 大学施設等調査	モンテビデオ	4 カ国合同ワークショップの準備	

9	12月16日	火	09:00 10:30 15:00 15:45	農牧水産省協議 家畜衛生研究部 (DILAVE) 表敬、協議 (発) モンテビデオ (AR1205) → (着) ブエノスアイレス→ラ・プラタ	ラ・プラタ	4カ国合同ワークショップの準備
10	12月17日	水	08:00 14:00 17:00	ワークショップ準備 4カ国合同ワークショップ ミニッツ作成	ラ・プラタ	同左
11	12月18日	木	09:00 16:00	4カ国合同ワークショップ ミニッツ協議	ブエノスアイレス	同左
12	12月19日	金	10:00 14:00 15:00 16:00	ミニッツ署名 JICA 事務所報告 日本大使館報告 外務省報告	ブエノスアイレス	同左
			小野、多田、高田			
13	12月20日	土	21:20	資料整理 (発) ブエノスアイレス (AA956) →	機中泊	同左
14	12月21日	日	8:30	(着) ニューヨーク (JL005、13:30 発) →	機中泊	同左
15	12月22日	月	16:20	→ (着) 成田		同左

	月日		時間	日程 (星野団長のみ)	宿泊地
13	12月20日	土	08:40 10:30	(発) ブエノスアイレス (AR296) → (着) アスンシオン (移動) →イグアス CETAPAR 視察	イグアス
14	12月21日	日		畜産農家視察 (移動) →アスンシオン 酪農プロジェクト打合せ	アスンシオン
15	12月22日	月	18:25 21:19	農牧省打合せ 関連機関訪問 (LIDIAV、SENACSA) JICA 事務所打合せ (発) アスンシオン (AA906) → (着) サンパウロ	機中泊
16	12月23日	火	0:35	(発) サンパウロ (JL047) →	機中泊
17	12月24日	水	13:10	→ (着) 成田	

1-4 主要面談者

アルゼンチン

(アルゼンチン側関係者)

Ana CAFIERO	外務省国際協力局 局長
Martin RIVOLTA	外務省国際協力局二国間協力部 部長
Daniel FILMUS	文部科学省 大臣
Arberto DIBBERN	国立ラ・プラタ大学 学長

Eduardo PONS	国立ラ・プラタ大学獣医学部 学部長
Edgardo NOSETTO	国立ラ・プラタ大学獣医学部 副学部長
Martin NAUMAN	国立農牧技術院 (INTA) 国際事業部
Ana CIPOLLA	国立農牧技術院 国際事業部
Jorge Nestor AMAYA	国立農産品品質衛生管理局 (SENASA) 局長

(日本側関係者)

永井 慎也	在アルゼンチン日本大使館 特命全権大使
大部 一秋	在アルゼンチン日本大使館 公使
城崎 和義	在アルゼンチン日本大使館 二等書記官
高井 正夫	JICA アルゼンチン事務所 所長
隈部 ビクトル	JICA アルゼンチン事務所
布施 和博	JICA アルゼンチン事務所 企画調査員 (南南協力)

ボリビア (アルゼンチンでのワークショップ参加者)

(ボリビア側関係者)

Isabel AGUILERA	レネ・モレノ自治大学獣医学部 副部長
Gustavo MORALES	獣医学研究所 所長

(日本側関係者)

登野城 優	JICA ボリビア事務所
-------	--------------

パラグアイ (アルゼンチンでのワークショップ参加者)

(パラグアイ側関係者)

Pablo BRITZ	大統領府企画庁 調整官
Gerardo BOGADO	農牧省 牧畜担当次官
Luis ACUÑA	アスンシオン大学獣医学部 副学部長
Hugo CORRALES	畜産衛生センター 所長

(日本側関係者)

山本 謙治	JICA パラグアイ事務所
-------	---------------

ウルグアイ

(ウルグアイ側関係者)

Diego de SAN MARTIN	外務省国際協力局 局長
Alberto CIRIO	共和国大学獣医学部 学部長
Recaredo UGARTE	農牧省畜産局 局長
Hector LAZANEO	農牧省畜産局家畜課 課長

Victor LYFORD-PIKE

農牧省畜産研究所 所長

(日本側関係者)

中村 義博

在ウルグアイ日本大使館 特命全権大使

林 政益

在ウルグアイ日本大使館 一等書記官

2. 調査の要約

2-1 調査結果の概要

本件プロジェクトでは、域内における獣医診断技術の向上を大きな目標としているが、対象となる診断技術の内容や対象となる疾病については、対象国によって、技術水準や環境が異なるため、それぞれのニーズが異なることが考えられることから、今回の調査では、各国の状況とニーズを的確に把握することに重点を置いた。具体的な調査の進め方としては、先ず、日本側とアルゼンチン側との2国間ワークショップにより、ラ・プラタ大学獣医学部におけるこれまでの協力の成果を踏まえて、今後の広域協力の可能性を検討した上で、4カ国合同ワークショップにより、地域における獣医診断分野の共通の課題とその解決のための取り組みを検討した。

この4カ国合同ワークショップを実施するにあたって、ラ・プラタ大学獣医学部のスタッフとJICA アルゼンチン事務所のスタッフが、周辺国を訪問するなどして、事前に情報交換を行っていたことから、ワークショップの運営は円滑に進められた。

この2つのワークショップを含む関係機関との協議の結果、「域内の獣医診断が的確に行われる」ことを将来の目標（上位目標）としつつ、「域内の獣医診断能力を向上させる」ことを今後5年間の目標（プロジェクト目標）として、広域的な技術協力を実施することが妥当とされた。この結果を踏まえ、アルゼンチン側の関係機関とプロジェクトの大まかな枠組みについてミニッツの署名を行った。

2-2 ミニッツの内容

ミニッツでは、以下の点について、アルゼンチン側との合意事項や協議の経過を記載した。

2-2-1 プロジェクトの枠組み

プロジェクトの枠組みは、ミニッツの付属文書 ANNEX I 及び II（和文は、付属資料 2. 「PDM 暫定版・和訳」を参照）に基づき実施することとし、今後 R/D が締結されるまでに確定するものとした。なお、これは、域内全体の PDM となっており、各国ごとの活動については、今後、引き続き検討する必要がある。

現在、アルゼンチンと日本では、パートナーシッププログラム (Partnership Programme for Joint Cooperation between Japan and Argentina, 以下 PPJA) を締結し、第三国への協力を行っていることから、今回のプロジェクトにおいても、この枠組みを活用することとした。

その際、アルゼンチンは、核となる国として、周辺国（ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ）への技術移転に主導的な役割を演じるとともに、周辺国の効果的な人材育成に貢献する

ものとした。

なお、本プロジェクトにおける PPJA との枠組みは R/D の署名までに継続検討することとした。

2-2-2 ワークショップの結果

先に述べたワークショップは、4カ国の政府機関、獣医学部を擁する大学及び日本側の関係者、約25名が参加して行われた。(参加者リストは、付属資料1.のANNEX VI参照)

ワークショップでは、参加型により「関係者分析」「問題分析」「目的分析」「プロジェクト選択」「PDM策定」が行われ、最終的に「暫定PDM」(付属資料1.のANNEX II参照)が作成された。

ワークショップは、すべての議論を詳細に行うには、時間的に不十分ではあったが、参加型で活発な議論や創造的な意見交換が行われるとともに、PCM計画手法により参加者の合意形成が効果的に行われた。

プロジェクトの枠組みや内容にかかる共通認識が不可欠であることからすれば、今回のワークショップは、地域間の協力によるプロジェクトの将来的な成功に大きく貢献したといえる。(ワークショップの詳細は、付属資料2.「ワークショップ結果報告書」を参照)

2-2-3 プロジェクトの妥当性

本件プロジェクトは、以下の理由により妥当性が高いと考えられる。

先ず、プロジェクトの目標は、4カ国における獣医診断技術の改善であり、長期的には、地域間の協力により域内の家畜の共通疾病を減少させるというものであるが、このことは、この地域の最重要産業のひとつである畜産業の将来的な発展に貢献することが明らかである。さらに、家畜疾病のコントロールは、MERCOSUR(南米南部共同市場:メルコスール)諸国の共通の課題であり、経済的にも重要な取り組みとなっていることから、受益国のニーズに合致していると判断される。

次に、このプロジェクトでは、南南協力と広域協力(域内協力)という新たな協力の枠組みの適用を想定している。ラ・プラタ大学獣医学部は、1989年から日本の協力の受益者であり、移転された技術により、供与された機材を効果的に維持管理する実施能力を有しており、その実施能力は、域内のプロジェクト運営の調整役を担うのに十分なものといえる。また、獣医学部では、周辺国の人材への研修と同様、周辺国への専門家の派遣の経験も有している。

一方、広域協力のスキームに関して言えば、このプロジェクトで対象としている家畜疾病は、国境を越えて広がる可能性があることから、域内の協力で対処すべき最適の課題であるといえる。

また、ターゲットグループを域内の獣医を対象としているが、これは、域内において家畜疾病を減少させるための診断技術向上アプローチにおいて、適切に選択された受益者といえる。獣医は、政府組織や研究施設や大学などの様々な役職についており、今回のプロジェクトの成果は、これら多様な機関に広がることから考えれば、今回のターゲットグループの選定は、正当な選択と言える。

2-2-4 基本計画（暫定マスタープラン）の内容

ミニッツに記載した暫定マスタープランの内容は、以下のとおりである。

プロジェクト名：南米地域における家畜疾病防除計画

※プロジェクト名については、暫定 PDM では、ワークショップで合意された名称を採用したが、マスタープランにおいては、便宜上、当初のプロジェクト名称を記載した。

プロジェクトの目的

スーパーゴール： 域内の共通の疾病が減少する。

上位目標： 域内で行われる疾病診断が適切になる。

プロジェクト目標：域内獣医の診断能力が向上する。

プロジェクトの成果

成果：1. 当該国の大学の獣医学部の教官の能力が向上する。

2. 研究所の獣医が訓練される。

3. 現場の獣医が訓練される。

4. 各国のラボのプロセスが OIE、MERCOSUR 等のマニュアルに沿って適切なものになる。

5. 現場の獣医の活動のための手続きマニュアルが作られる。

6. 域内での調整システムが確立される。

ターゲットグループ：域内の獣医

対象地域：南米南部地域（アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ）

協力期間：5年間

2-2-5 調査団からの提言事項

調査団からは、ワークショップやラ・プラタ大学との協議を踏まえ、以下の点を提言した。

(1) 本プロジェクトは、技術的課題を改善するものであり、アルゼンチンと関係国は、政治的、経済的影響を受けないようにすべきこと。

(2) 各国からの参加者は、ワークショップで得られたプロジェクト全体の枠組み（ANNEX VI）に賛同している。詳細な活動や指標については、ラ・プラタ大学のイニシアチブのもとに策定していくべきであること。

(3) プロジェクトの効果的な実施のために、ベースライン調査を実施すべきであること。

(4) JICA アルゼンチン事務所は、プロジェクトの実施のために、関係機関とよく協議すること。

(5) JICA アルゼンチン事務所は、プロジェクトの準備と実施の各段階で ODA タスクフォースに協議すること。

3. 家畜疾病分野における取り組みと広域協力

3-1 家畜疾病防除における広域協力の意義

家畜疾病対策分野での広域的な協力の意義については、感染症には国境が無く、国際的な協力が重要であるとの説明がされてきている。具体的な広域協力の内容とその意義については以下の点が挙げられる。

第一に、各国が連携して国際伝染病対策のための検疫活動や疾病情報の交換を行うには、国際的な枠組みに基づく行政的な対応がまず求められる。

第二に、各国が有する技術資源や人的資源を広域的に活用することにより、より効率的な疾病対策や資源の不足する国の技術力の向上促進が期待される。

第三に、単に疾病発生情報という形でなく、使用される診断技術やラボ能力などの技術情報が共有されることにより、疾病情報の相互信頼性向上が期待される。

広域協力によりこれらが形成されることにより、効率的かつ効果的な疾病防除対策が期待される。

アジアで実施中の広域協力は、これらの三つを包含しているが、大学を中心とした広域協力の場合、第二、第三の観点が主体となると考えられる。また、大学間広域協力の直接成果は、期待される最終効果に対しては間接的な意義を有するものともみなすことができる。

3-2 広域疾病防除の観点からみた、協力課題の選定

広域技術協力の具体的な課題については、原則的には次のような条件が満たされねばならないと考えられる。

第一に、参加国（参加機関）の相互において関心があり、有益であること。

第二に、各国それぞれのニーズに対応していること。

第三に、協力のための資源が得られること。

である。

すべての国が共通して取り組むべき特定の課題が選定できればよいが、第一と第二においては、技術レベルや組織体制の違いにより、国ごとにその具体的な内容が異なってくる可能性が高い。国ごとの重点課題や優先順位を定めて、参加各国がそれに対して持てる資源を提供しつつ協力するという形が考えられる。

それでは、予定している参加各国の重要家畜疾病の発生状況と対策はどのようになっているのだろうか。各国の行政責任機関の OIE への報告の状況を表 1 に取りまとめた。

アルゼンチンとパラグアイでは、報告している疾病の種類が極めて限られている。これはそれぞれ SENASA、SENACSA という行政責任機関が法的に所管している疾病についてのみの報告となっているからである。それ以外の疾病の情報については、すくなくともアルゼンチンについては取りまとめられたものは無い。

表には直接あらわされていないが、2000-2001年に他の国で FMD が盛んに発生していた時期に、パラグアイからは FMD の発生報告が無い。他の諸国は、おそらくはパラグアイ当局の報告に対して疑念を持っていたものと憶測される。2002年に、パラグアイで FMD の疑いが生じた段階で、アルゼンチンをはじめとする周辺国がパラグアイに対して厳しい対応を示した理由の一つとも考えられる

表 1

各国の家畜感染症発生報告数 OIE Annual Report

		1998	1999	2000	2001	2002	報告の多い疾病
アルゼンチン	疾病数	8	3	1	2	1	FMD
	件数	168	48	50	2415	1	Trichinelosis
	頭数	1447	392	264	88598	20	
ウルグアイ	疾病数	13	17	22	19	15	FMD
	件数	182	418	272	2873	206	Echinococcosis
	頭数	10712	313533	1510482	761021	878418	Liverfluke
パラグアイ	疾病数	6	6	4	4	5	Brucellosis
	件数	=	=	=	=	=	Equine Infectious Anaemia
	頭数	16260	2741	3835	4947	3706	Rabies
ボリビア	疾病数	19	30	1	22	21	FMD
	件数	=	=	=	=	=	Brucellosis
	頭数	17628	60406	5686	14347	21251	Avian Salmonellosis

2000-2001 パラグアイのみでFMD発生報告が無い
アルゼンチン、パラグアイ 報告対象疾病が限られている
ボリビア 鶏病の報告が多い

表 2

各国の行政関係機関が具体的な対策を掲げる重要家畜感染症

アルゼンチン	ウルグアイ	パラグアイ	ボリビア
SENASA, INTA	DSA, DILAVE, INIA	SENAESA	SENASAG, LIDIVET
Foot and Mouth Disease	Foot and Mouth Disease	Foot and Mouth Disease	Foot and Mouth Disease
Vibriosis	BSE	Bovine Brucellosis	Avian Salmonellosis
Trichomoniasis	Bovine Brucellosis	Bovine Tuberculosis	Bovine Tuberculosis
Tuberculosis	Bovine Tuberculosis	Newcastle Disease	Bovine Brucellosis
Rotavirus Infection	Anaplasmosis	Classical Swine Fever	Sarcosistosis in Camellidae
Salmonellosis	Babesiosis	Rabies	BSE
Mastitis	IBR	Equine Infectious Anaemia	Classical Swine Fever
BSE	Neosporosis		Trypanosomiasis
Parasitic Diseases	Mycoplasma bovis Infection		Newcastle Disease
	Mastitis		Swine Mycoplasmosis
			Equine Infectious Anaemia

表 3

ワークショップで各国の参加者が重要としてあげた家畜感染症

アルゼンチン	ウルグアイ	パラグアイ	ポリビア
Foot and Mouth Disease	Foot and Mouth Disease	Foot and Mouth Disease	Foot and Mouth Disease
Brucellosis	Brucellosis	Brucellosis	Brucellosis
Tuberculosis	Tuberculosis	Tuberculosis	Rabies
Paratuberculosis	BSE	Parasitosis	IBR
Neonatal Diarrhoea	Haemo-Protozoan Parasite	Rabies	Trypanosomiasis
G. I. Parasitosis	Ovine Ectoparasites	Clostridial Infection	Ovine and Camel Parasitosis
Swine Fever	Rabies	Newcastle Disease	Classical Swine Fever
Aujesky	Scrapie	Classical Swine Fever	Aujesky
Avian Salmonellosis	Bovine Abortion	Equine Infectious Anaemia	Newcastle Disease
Avian Mycoplasmosis	Leptospirosis		Avian Salmonellosis
Equine Infectious Anaemia	Hydatidiosis		Garboro
Equine Arteritis	Cysticercosis		Avian Hepatitis
Equine Rinopneumonitis	Infectious Broncheitis		Avian Laryngotracheitis
Equine Adenitis	Newcastle		Equine Infectious Anaemia
Equine Encephalitis	Avian Salmonellosis		Equine Trypanosomiasis
Equine Influenza	Avian Influenza		
Equine G. I. Parasites	Garboro		
	Classical Swine Fever		
	Equine Infectious Anaemia		
	Equine Encephalitis		
	Equine Influenza		

また、各国の行政機関が重要感染症として、キャンペーンやモニタリングなど具体的な対策を掲げているものは表2のようになっている。各国が共通して上げているものには、FMD、結核、ついでブルセラ病、BSE などがあり、FMD を除いては、人畜共通感染症として公衆衛生上重要なものになっている。

さらに、今回の調査で実施したワークショップ参加者が挙げた、各国の重要疾病を表3に掲げた。共通して挙げられた疾病には、FMD、ブルセラ病、豚コレラ、馬伝染性貧血、次いで結核、狂犬病、鶏サルモネラ、ニューカッスル病がある。

各国が共通して関心を示す、重要疾病を課題として取り上げるとすれば、個々で挙げられたような疾病がとりあえずの候補として考えられることになる。

以上の各国が重要疾病として挙げている疾病はその病気の性質によっておおむね次のように整理することができる。病気によっては1、2の両者にまたがっているものもある。重要疾病の取り上げ方については、この地域が畜産物輸出国であるということもあるが、世界のどこでもほぼ同じような傾向だと思われる。

ただし、今回のワークショップには生産者や臨床開業獣医師などが含まれていなかったことが、

第三の категорияについて順位を低くしたものと思われる。今回の調査ではその機会は無かったが、経験上、牧畜民などに直接聞くと第三の categoria の病気が挙げられることも多い。

広域的に共通して関心の対象となりやすい家畜疾病

1. 畜産物貿易の障害となる疾病 — 特に行政的関心が強い
OIE リスト A (B) 疾病
2. 公衆衛生上の重要疾病 — 行政及び一般世論の関心が強い
人畜共通感染症、動物由来人感染症
3. 目に見えて生産性を阻害する疾病 — 畜産農家の関心が強い
流産などの繁殖障害
急性死亡を起す疾病
畜産物商品価値の低下・喪失を生ずる疾病

(印象としてのワークショップ参加者による優先順位：1 > 2 > 3)

アルゼンチンやパラグアイでは法律で指定された重要伝染病は SENASA や SENACSA の行政責任機関が一元的に対応する体制がとられ、他の病気にに対して行政はほとんど関心を示していない。しかし、これらの重要疾病の発生を早期に摘発するためには、日常の診断対象疾病の範囲が広くなければ、疑い例が簡単に見逃される可能性も高くなると思われる。現場に直結した日常診断技術体制の充実、直接生産現場の動物の健康のためと共に、迅速な対応が要求される特定重要伝染病対策にも結びつくものであろう。

上に掲げたような疾病を共通課題として取り上げる場合においても、診断技術としては幅広い疾病診断に応用可能な技術の構築改善というアプローチを取ることが、妥当と考えられる。

技術協力を行うときに、その地域に技術資源となる人材や直接的な技術の受け皿となる人材や組織が存在するかを考慮する必要がある。本件の場合、大学を中心とした協力として、教育・試験・研究機関の獣医師がまず対象になるだろう。国の規模に応じて大きな差があるのは当然として、技術協力の受け皿となる人員数においては、各国とも必要な人数が存在しているといえる。

4. 広域協力の実施方針

現時点では、本プロジェクトで適用する広域協力については、以下のような考え方で実施することを検討している。今後、日本国内の関係省庁、対象地域の関係機関との協議を踏まえて、細部を詰めていく必要がある。

4-1 PPJA との関連

アルゼンチンとの間ではPPJA（日本アルゼンチンパートナーシッププログラム）が締結されていることから、この枠組みを活用することを基本とする。

このPPJAの枠組みを活用することの利点と留意点は、以下のとおりである。

(利点)

- ・アルゼンチン側のオーナーシップの醸成に大きな効果がある。
- ・アルゼンチン側のスキーム、資金の有効活用が可能となる

(留意点)

- ・周辺各国との調整に時間がかかると考えられる。なお、この点については、現場の関係者の主導による調整を行うことが望ましい。
- ・JICAのスキーム（技プロ）との十分な調整が必要となる。

4-2 現行プロジェクトとの整理

関係国における家畜疾病分野については、以下のような既存案件があり、整理が必要であるが、現状で考えられる対応方針は、以下のとおり。

(1) パラグアイ「家畜衛生」(PPJA 案件)

この案件は、対象が行政となっており、本件とは相互補完的な実施とすることが望ましいことから、並行的に実施する。

(2) アルゼンチン第3国集団研修「家畜診断」

この案件は、2005年度までの予定で、ラ・プラタ大学で実施しているものであるが、ラ・プラタ大学の実施能力に特段の支障がないと考えられるため、並行的に実施する。

4-3 広域協力のスキーム

広域協力のスキームについては、JICAのスキームとして確立しているわけではなく、案件ごとのケースバイケースでの実施となっている。本件については、現時点では、以下のように取り扱うことが望ましいと判断される。

(1) 基本スキーム

現行の技プロ（二国間協力）として立ち上げ、広域協力支援費を活用する。

(2) 周辺国への協力メニュー

他の先行プロジェクトの事例も踏まえ、アルゼンチン以外の国への二国間協力（小規模な機材の供与等）も実施を検討する。

(3) R/Dの締結

実施に当たっては、アルゼンチンとは技プロのR/Dを締結し、周辺国とはミニッツを締結する。